

---

## ごあいさつ

---

東洋文化研究所は、「東洋文化に関する総合的研究」を目的として、1941年に創設された、東京大学の附置研究所の一つです。昨2011年には創立70年を迎えました。本所が研究の主たる対象とする地域は、エジプトから朝鮮半島まで（日本ももとより研究対象のうちですが）。この広大な範囲の各地域について、政治、経済、宗教、歴史、考古、文学、美術など、さまざまな角度から、日々精力的に研究を進めています。

本研究所では、徹底した資料研究と現地研究を二つの大きな柱としています。資料については、漢籍をはじめとする世界でも有数の蔵書を有し、それらを整理し公開するための附属施設、東洋学研究情報センターがあります（文部科学省共同利用・共同研究拠点に認定）。

各々の所員は、国内外に研究のネットワークを持ち、しばしば海外へ出て現地で調査研究を行うばかりでなく、海外からも常時多くの研究者がおとずれており、まさしくアジア研究の世界的拠点となっています。

所員はまた、東京大学の各学部、研究科における教育にも従事しています。また、日本学術振興会特別研究員、海外からの訪問研究員などを数多く受け入れ、若手研究者の育成も積極的に行っています。

昨年より、従来のディシプリンの枠にとらわれない新たな研究領域の創成を目的に、新世代アジア研究部門を立ち上げ、さらなる発展を期しています。

いうまでもなく、日本と世界にとってアジア地域の重要性は、いよいよ高まるばかりです。こうした状況のもと、アジアに関する専門研究所である東洋文化研究所が、より大きな役割を果たすべく、研究の深化と成果の発信につとめてまいりたいと思います。

所 長 大 木 康

東京大学  
東洋文化研究所



所長  
挨拶

所長  
大木  
康

## 研究部門

本研究所は 1941 年 11 月 26 日、東洋文化の総合的研究を目的として、東京（帝国）大学に設置創設されました。哲学・文学・史学部門、法律・政治部門、経済・商業部門という部門体制で、附属図書館内に研究室、書庫、事務室を置いて発足しました。1949 年、新たに 3 部門が増設されたのを機会に研究組織を細分化し、哲学・宗教部門、文学・言語部門、歴史部門、美術史・考古学部門、法律・政治部門、経済・商業部門の 6 部門に再編成しました。同時に、本拠を文京区大塚町、外務省所管の旧東方文化学院の一部に移し、これまでの附属図書館内研究室を分室として、研究の充実・発展をはかりました。

ついで 1951 年、人文地理学部門と文化人類学部門が加えられました。これを契機として、従来の専門体系のみによる部門構成を、汎アジア経済部門、汎アジア人文地理学部門、汎アジア文化人類学部門、東アジア政治・法律部門、東アジア歴史部門、東アジア美術史・考古学部門、東アジア哲学・宗教部門、東アジア文学部門という地域区分を加えた 8 部門に再編成しました。地域部門の充実をはかる将来計画にもとづいて、1960 年には南アジア政治・経済部門、1964 年には東北アジア部門、1968 年には西アジア歴史・文化部門、1973 年には東南アジア経済・社会部門、1978 年には西アジア政治・経済部門が増設されて、13 部門を擁するにいたりました。

さらに、アジア地域全体が世界のなかでしめる重要性が大きくなったことを受けて、本研究所がわが国のアジア研究の中核的、指導的役割を果たすために、研究内容の充実、規模の拡大を含む組織上の再編成を行うことが必要となりました。そこで、1981 年に新しい構想にもとづく大部門制を採用し、それまでの 13 部門を、汎アジア部門、東アジア部門、南アジア部門、西アジア部門の 4 部門に統合して再出発し、2011 年からは、これに新世代アジア部門が加わって、今日にいたっています。

## 附属 東洋学研究 情報センター

1999 年度に、東洋学文献センターを廃止して、比較文献資料学と造形資料学という 2 つの分野からなる東洋学研究情報センターが新設されました。1966 年の設立以来東洋学文献センターが実施してきた文献資料に関するドキュメンテーション業務は、アジア全域の文献を対象とする比較文献資料学分野に引き継がれています。また、センターの新設に伴い、絵画・考古資料を対象とする造形資料学分野が設けられ、さらに 2009 年度からアジアの社会調査資料を対象とするアジア社会・情報分野が増設されました。2009 年 6 月には、本センターが文部科学大臣によって共同利用・共同研究拠点に認定され、2010 年度からは全国の関連研究者コミュニティに対してより開かれたセンターとしての活動を開始しました。

## 建物

創立以来 23 年にわたって、本研究所は附属図書館内研究室や外務省所管の建物に仮住いの状態のままでしたが、1967 年に、本郷構内に総合研究資料館（現総合研究博物館）との合同庁舎が完成し、5 階以上を本研究所が使用することになりました。

しかしその後、研究組織の拡充、研究活動の多様化、図書・資料の増加などにもとない、狭隘な施設の改善、とくに書庫の緊急な増設等の強い要望があり、1983 年にいって総合研究資料館（現総合研究博物館）との交換分合により、本研究所が合同庁舎を全館使用することになりました。これにもとなって全面的に改修工事を行い、1984 年 3 月に工事が完成しました。本研究所の建物は総面積 6,577 平方メートル、地下 1 階より地上 8 階までの 9 層からなります。

2006 年 2 月に研究所建物の耐震補強工事が必要であることが判明し、同年 7 月以降、研究室・事務室・図書・研究資料の仮移転を実施、2007 年 8 月から耐震補強・改修工事を開始し、2008 年 3 月に工事は完了しました。

# 歴代受賞者

# 歴代所長

文化勲章・文化功労者・学士院賞を受賞した本研究所の教員は次の通りです。

## 文化勲章

|       |       |
|-------|-------|
| 江上 波夫 | 1991年 |
| 山本 達郎 | 1998年 |
| 中根 千枝 | 2001年 |

## 文化功労者

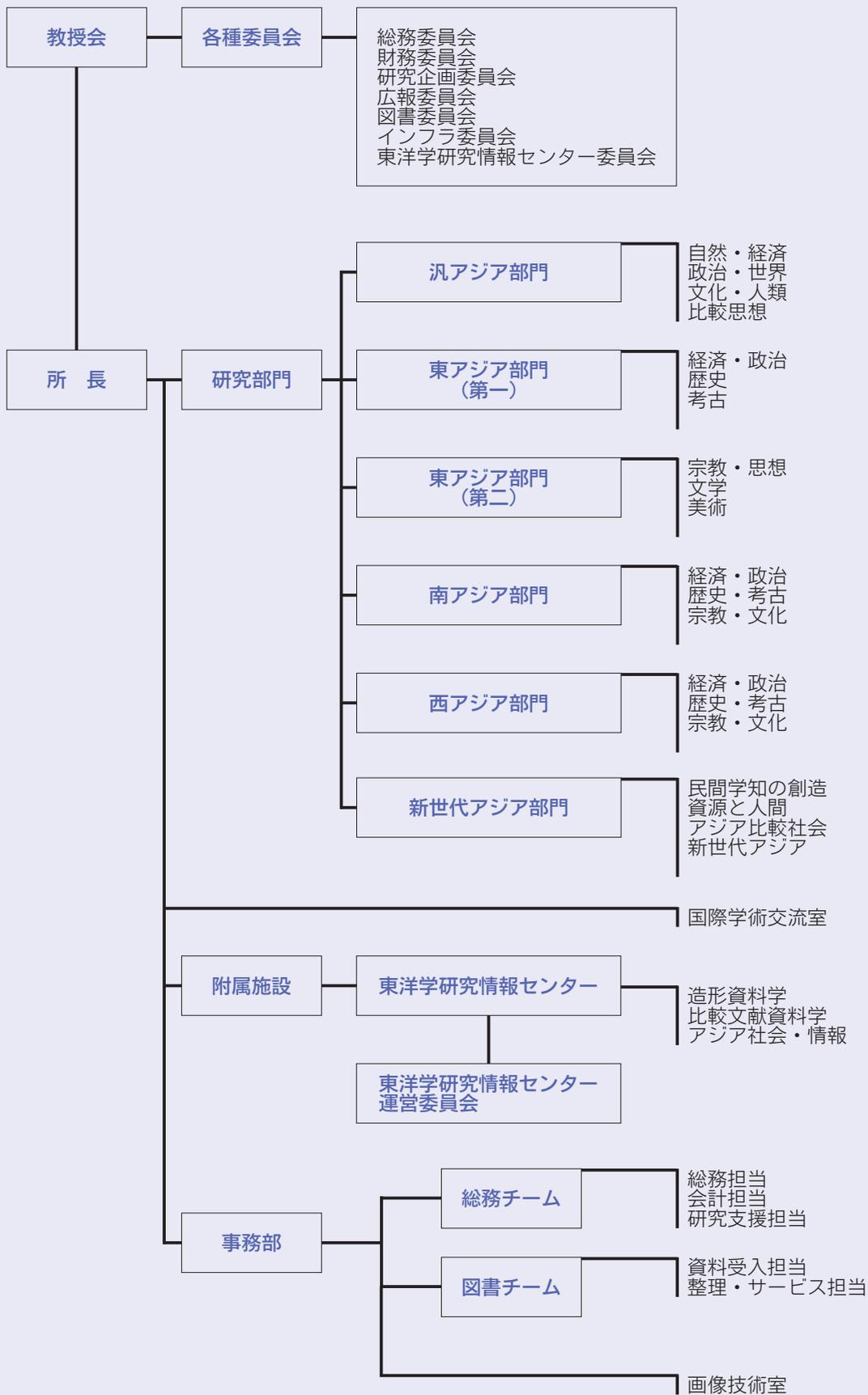
|           |       |
|-----------|-------|
| 辻 直四郎 (併) | 1978年 |
| 江上 波夫     | 1983年 |
| 山本 達郎 (併) | 1986年 |
| 川野 重任     | 1993年 |
| 中根 千枝     | 1993年 |
| 板垣 雄三     | 2003年 |
| 斯波 義信     | 2006年 |

## 学士院賞

|           |       |
|-----------|-------|
| 仁井田 陞     | 1934年 |
| 宇野 圓空     | 1942年 |
| 山本 達郎 (併) | 1952年 |
| 周藤 吉之     | 1956年 |
| 福島 正夫     | 1963年 |
| 鎌田 茂雄     | 1976年 |
| 荒 松雄      | 1978年 |
| 池田 温      | 1983年 |
| 鈴木 敬      | 1985年 |
| 田仲 一成     | 1993年 |

|                 |                         |
|-----------------|-------------------------|
| 桑田 芳蔵           | 1941. 11. 26—43. 3. 31  |
| 宇野 圓空           | 1943. 4. 1—46. 10. 5    |
| 戸田 貞三           | 1946. 10. 6—47. 9. 30   |
| 辻 直四郎           | 1947. 10. 1—54. 3. 31   |
| 仁井田 陞           | 1954. 4. 1—58. 7. 10    |
| 飯塚 浩二           | 1958. 7. 11—60. 7. 9    |
| 結城 令聞           | 1960. 7. 10—62. 7. 9    |
| 江上 波夫           | 1962. 7. 10—64. 7. 9    |
| 飯塚 浩二           | 1964. 7. 10—65. 2. 28   |
| 小口 偉一           | 1965. 3. 1—66. 3. 31    |
| 川野 重任           | 1966. 4. 1—68. 3. 31    |
| 小口 偉一           | 1968. 4. 1—70. 3. 31    |
| 泉 靖一            | 1970. 4. 1—70. 11. 15   |
| 川野 重任<br>(事務取扱) | 1970. 11. 16—70. 12. 17 |
| 鈴木 敬            | 1970. 12. 18—72. 3. 31  |
| 荒 松雄            | 1972. 4. 1—73. 3. 31    |
| 窪 徳忠            | 1973. 4. 1—74. 3. 31    |
| 佐伯 有一           | 1974. 4. 1—76. 3. 31    |
| 大野 盛雄           | 1976. 4. 1—78. 3. 31    |
| 深井 晋司           | 1978. 4. 1—80. 3. 31    |
| 中根 千枝           | 1980. 4. 1—82. 3. 31    |
| 大野 盛雄           | 1982. 4. 1—84. 3. 31    |
| 尾上 兼英           | 1984. 4. 1—86. 3. 31    |
| 山崎 利男           | 1986. 4. 1—88. 3. 31    |
| 斯波 義信           | 1988. 4. 1—90. 3. 31    |
| 池田 温            | 1990. 4. 1—92. 3. 31    |
| 松谷 敏雄           | 1992. 4. 1—94. 3. 31    |
| 後藤 明            | 1994. 4. 1—96. 3. 31    |
| 濱下 武志           | 1996. 4. 1—98. 3. 31    |
| 原 洋之介           | 1998. 4. 1—2002. 3. 31  |
| 田中 明彦           | 2002. 4. 1—2006. 3. 31  |
| 関本 照夫           | 2006. 4. 1—2009. 3. 31  |
| 羽田 正            | 2009. 4. 1—2012. 3. 31  |
| 大木 康            | 2012. 4. 1—現在           |

# 組織構成図



# 研究活動一覽

東洋文化研究所では、各所員が独自の研究を進めるとともに、所内での共同研究や所外の研究者との研究協力を積極的にいき、次のようなさまざまな形態の研究活動を推進しています。

## A 部門研究

所内の汎アジア、東アジア（第一）、東アジア（第二）、南アジア、西アジア、新世代アジアの各研究部門と附属東洋学研究情報センターでは、それぞれの課題を掲げ、地域的・学際的な研究を共同して行っています。

## B 個人研究

所員は個々の専門地域・分野において最先端の研究を行っており、その業績は国際的にも高く評価されています。

## C 班研究

各専門分野の研究を推進し所外の研究者との交流を深めるため、所員を主任とする班研究会が特定のテーマごとに数多く設置されています。

## D 外部資金による研究

所員は文部科学省科学研究費補助金やさまざまな外部の研究助成・奨学金に積極的に出願しており、多くが採択されて重要な成果を上げています。

汎アジア部門

「アジア諸地域における社会・文化の変容過程」

汎アジア部門は、アジアを広く対象とし、経済学・政治学・人文地理学・文化人類学・比較思想といった社会科学・人文科学の諸分野における研究を深めるだけでなく、最先端の学際的な研究をも展開しています。同時にこの部門ではアジアのアジア研究者とのネットワーキングにも力を注ぎ、アジア研究の地域的ハブとしての機能を担おうとしています。日本も重要な研究対象としています。

自然・経済研究領域 教授 松井 健 教授 池本 幸生

講師 卯田 宗平 (兼任)

政治・世界研究領域 委嘱教授 田中 明彦 教授 松田 康博

助教 安田 佳代

文化・人類研究領域 准教授 名和 克郎

東アジア部門  
(第一)

「東アジアにおける国家権力と社会経済構造」

東アジア第一部門は、中国、朝鮮、日本、ときにはベトナムを含む東アジア世界を総体として取り上げ、社会科学的方法によって過去から現在に至る動態を把握することを目標とします。この研究では、とくに東アジア第二部門と協力して、学際的な地域研究による生きた全体像を目指すことは言うまでもありません。

経済・政治研究領域 教授 高見澤 磨 教授 安富 歩

歴史研究領域 教授 黒田 明伸 教授 真鍋 祐子

考古研究領域 教授 平勢 隆郎 准教授 小寺 敦

東アジア部門  
(第二)

「東アジアにおける庶民文化の形成と展開」

東アジア第二部門は、中国を中心とする東アジア地域の思想、宗教、文学、美術を研究対象とする部門です。「庶民文化の形成と展開」を課題とした部門研究においては、各研究分野で独自の検討をするとともに、共同してその解明を目指しています。

宗教・思想研究領域 准教授 ブルチャー ミヒャエル・フランク (兼任)

文学研究領域 教授 大木 康

美術研究領域 教授 小川 裕充 准教授 板倉 聖哲

## 南アジア部門

## 「環ベンガル湾地域における文明・文化の交錯」

南アジア部門は、インド亜大陸を中心とする狭義の南アジア地域とともに東南アジア地域をも研究の対象にしています。この地域は多様な言語と文化をもつ人びとが複雑な社会を形成しているうえ、大部分の国々が欧米の植民地支配を経験し第二次大戦後に独立を勝ち取ったという歴史的経験をもっており、こうした事情の理解なしには現状の把握も不可能です。このため、本部門は政治・経済・社会・文化などの広範な分野にわたってこの地域の過去と現在を探求することを共通の課題としています。

経済・政治研究領域 教授 高橋 昭雄

歴史・考古研究領域 准教授 古井 龍介

宗教・文化研究領域 教授 永ノ尾信悟 准教授 馬場 紀寿

## 西アジア部門

## 「西アジア文化の歴史的形成と現代的課題」

西アジア部門は、アフガニスタンからトルコ・エジプトまでの地域、いわゆる中東を研究対象とし、あわせて内陸アジアをも対象のなかに包含します。この広大な地域の政治、経済、文化、社会を、学際的研究によって総合的に理解し、その特質を解明することが本部門の目的です。そのために各自が独自の立場から個人研究を行うとともに、「西アジア文化の歴史的形成と現代的課題」を共通の研究題目とする共同研究が実施されています。

経済・政治研究領域 教授 長澤 榮治

歴史・考古研究領域 教授 羽田 正 教授 榎屋 友子

宗教・文化研究領域 教授 鎌田 繁 准教授 森本 一夫（兼任）

新世代アジア  
部門

## 「アジアに関する新たな研究領域の開拓」

新世代アジア研究部門は、アジア研究における新たな研究対象、研究方法、研究分野を切り拓き、アジア研究の新たなビジョンを社会に向けて提示します。それは、従来の優れた基礎研究を継承しつつ、未来に向けた新しい研究を生み出し、これを社会へ積極的に発信する試みでもあります。

民間学知の創造 教授 菅 豊

資源と人間 准教授 佐藤 仁

アジア比較社会 教授 園田 茂人（兼任）

新世代アジア 特任教授 チャーニー マイケル・ウォルター

准教授 シルツ ミハエル 准教授 李 賢鮮

東洋学研究情  
報センター

## 「アジア資料学の構築」

（東洋学研究情報センターの項、18ページをご参照ください。）

## B 所員の研究テーマ (2012年度)

### 汎アジア部門

いけと ゆきお  
池本 幸生

アジアにおける貧困と不平等

たなか あきひこ  
田中 明彦

東アジアをめぐる主要国間の国際政治

まつい たけし  
松井 健

文化としての自然

やすだ かよ  
安田 佳代

東アジアにおける国際衛生行政

うだ しゅうへい  
卯田 宗平 (兼任)

東アジアの自然と人間：変化と適応

なわ かつお  
名和 克郎

ネパールおよび南アジアの集団間関係

まつだ やすひろ  
松田 康博

中国と台湾の政治・外交研究，中台関係論

### 東アジア部門 (第一)

くろだ あきのぶ  
黒田 明伸

東アジア経済史，世界貨幣史

たかみ ざわ おさむ  
高見澤 磨

現代中国の法と社会

まなべ ゆうこ  
真鍋 祐子

朝鮮民族社会の伝統文化とナショナリズム

こてら あつし  
小寺 敦

中国古代家族史

ひらせ たかお  
平勢 隆郎

中国古代領域国家の形成

やすとみ あゆむ  
安富 歩

魂の脱植民地化

### 東アジア部門 (第二)

いたくら まさあき  
板倉 聖哲

宋元文人の絵画表象

おかわ ひろみつ  
小川 裕充

東アジア美術史

おおき やすし  
大木 康

中国明清時代の文学

ブルチャー ミハエル・フランク (兼任)

東アジアの近代思想と政治概念史

### 南アジア部門

えいの お しんご  
永ノ尾 信悟

古代インド社会と祭式

ばば のりひさ  
馬場 紀寿

上座部仏教の思想と歴史

たかはし あきお  
高橋 昭雄

東南アジアの農村社会

ふるい りょうすけ  
古井 龍介

南アジア古代・中世初期史

## 西アジア部門

かまだ しげる  
鎌田 繁

イスラーム宗教思想の構造と展開

はねだ まさし  
羽田 正

世界史の再構築

もりもと かずお  
森本 一夫 (兼任)

ムスリム諸社会の社会史的研究

ながさわ えいじ  
長澤 榮治

近代アラブ社会経済史

ますや ともこ  
榊屋 友子

イスラーム地域における美術と社会

## 新世代アジア部門

さとう じん  
佐藤 仁

資源ガバナンス・開発研究

そのだ しげと  
園田 茂人 (兼任)

「動くアジア」の比較社会学

チャーニー マイケル・ウォルター

植民地期ビルマにおける、鉄道の役割

すが ゆたか  
菅 豊

東アジアの自然と文化

シルツ ミハヤエル

東アジアにおける第二次大戦前の為替銀行の役割

イ ヒョンソン  
李 賢鮮

アジアの国際移動、社会福祉と市民社会

## 国際学術交流室

おおの きみか  
大野 公賀

中華民国期の文学と社会

チャード ロバート・ローレンス

中国学・東アジア文化史

## 東洋学研究情報センター

いたくら まさあき  
板倉 聖哲 (兼任)

東アジア美術造形資料の研究

おおき やすし  
大木 康 (兼任)

漢籍版本目録学の研究

そのだ しげと  
園田 茂人 (兼任)

アジア地域を対象にした比較社会的研究

なわ かつお  
名和 克郎 (兼任)

ヒマラヤ地域の文献・口承

ますや ともこ  
榊屋 友子 (兼任)

イスラーム地域造形資料の研究

まつだ やすひろ  
松田 康博 (兼任)

中国と台湾の政治・外交研究、中台関係論

南アジア北部における人類学的研究の再検討

主任：名和克郎

- ※上杉妙子 ※小西公大 ※小牧幸代 ※佐藤齊華
- ※田辺明生 ※外川昌彦 ※藤倉達郎
- ※マハラジャン ケシャブ・ラル ※三尾稔 ※南真木人
- ※森本泉 ※安野早己

アジア・アフリカの貧困と不平等の再検討

主任：池本幸生

- ※松井範博 ※後藤玲子 馬場紀寿 ※野上裕生 佐藤仁
- ※片岡洋子 ※田口さつき ※坪井ひろみ ※吉野馨子
- ※峯陽一

サブシステム研究の可能性

主任：松井健

- 永ノ尾信悟 菅豊 ※飯田卓 ※遠藤仁 ※太田至
- ※大村敬一 ※大山修一 ※落合雪野 ※河合香史
- ※栗本英世 ※窪田幸子 ※小磯学 ※小長谷有紀
- ※末原達郎 ※杉島敬志 ※杉藤重信 ※須藤健一 ※曾我亨
- ※高倉浩樹 ※野林厚志 ※松田素二 ※家中茂

アジアの食文化と開発と地域

主任：池本幸生

- 羽田正 ○梅崎昌裕 ※玄大松 菅豊 ※阿部健一
- 渡辺知保 松井健 名和克郎 ※辻村英之

中台関係の総合的研究

主任：松田康博

- ※若林正文 ○高原明生 ※家永真幸 ※石川誠人 ※伊藤剛
- ※伊藤信悟 ※小笠原欣幸 ※佐藤幸人 ※福田円
- ※松本充豊 ※林成蔚 ※黄偉修

アジアにおける多言語状況と言語政策史の比較研究

主任：名和克郎

- 岩月純一 ※大川謙作 ○吉川雅之 ○渡邊日日

中国出土文字史料とその歴史的背景

主任：平勢隆郎

- ※竹内康浩 ※呂静 ※原宗子 ※影山輝国 ※鶴間和幸
- ※工藤元男 ※谷豊信 ※飯尾秀幸 ※吉開将人 ※熊谷滋三
- ※近藤浩之 ※甘懐真 ※池田知正 ※徐蘇斌

中国法研究における固有法史研究、近代法史研究及び現代法研究の総合の試み

主任：高見澤磨

- 松原健太郎 ※赤城美恵子 ※李英美 ※石岡浩 ※鹿嶋瑛
- ※加藤雄三 ※川村康 ※陶安あんど ※鈴木秀光
- ※高遠拓児 ※中村正人 ※娜鶴雅 ※西英昭 ※森川伸吾

魂の脱植民地化～共生と創発の歴史的ダイナミクス～

主任：安富歩

- ※辻明日香 ※深尾葉子 ※富田啓一 ※井上正夫 ※李昌平
- ※翟学偉 ※富樫智 ※包茂紅

中国古代文献の成立に関する多角的研究

主任：小寺敦

- 池澤優 ○大西克也 ※名和敏光 ※宮本徹 ※谷中信一

親鸞ルネサンス～親鸞で研究する学問の創出をめざして～

主任：安富歩

- ※阪上雅昭 ※水月昭道 ※山本伸裕 ※大平泰男

現存する中国絵画の包括的再検討

主任：小川裕充

- 板倉聖哲 ※嶋田英誠 ※宮崎法子 ※藤田伸也
- ※救仁郷秀明 ※井手誠之輔 ※西上実 ※伊藤大輔
- ※増記隆介 ※竹浪遠

アジア美術とアイデンティティー

主任：小川裕充

- 板倉聖哲 ※西上実 ※井手誠之輔 ※松浦史子 ※朴亨國
- ※後小路雅弘 ※浅井和春 ※大田省一 ※秋山光文 羽田正
- 樹屋友子 ※田中秀隆

仏教美術に関する資料収集と比較研究

主任：板倉聖哲

- ※内藤榮 ※伊東哲夫 ※稲本泰生 ※榎本涉 ※高橋範子
- ※高橋照彦 ※井手誠之輔 ※安田治樹

テキストの生成と伝播

主任：大木康

- ※平田昌司 ※浅見洋二 ○齋藤希史 馬場紀寿 ※山内文登

ブラフマニズムと仏教の関係

主任：永ノ尾信悟

- ※青木健 ※石井裕 ※片岡啓 ○齊藤明 ※榊和良
- ※申才恩 ※杉木恒彦 ※鈴木健太 ※鈴木隆泰 ※高島淳
- ※田中公明 ※種村隆元 ※永崎研宣 馬場紀寿 ※引田弘道
- ※森雅秀 ※八尾史 ※横地優子 ※藪下ネーナパー
- ※水野明日香

ミャンマー近現代史における「国」と「民」

主任：高橋昭雄

- ※根本敬 ※工藤年博 ※谷祐可子 ※池田一人

## 南アジア農村社会の歴史的研究

主任：古井龍介

※太田信宏 ※小川道大 ※木村真希子 ※小嶋常喜  
※小西公大 ※中溝和弥 名和克郎 ※野村親義 ※舟橋健太  
※三田昌彦

## 東南アジア近現代史像の再検討

主任：高橋昭雄

※浅見靖仁 ※土佐弘之 ○中西徹 ○藤原帰一 ※宮脇聡史  
※高地薫 ○古田元夫 ※白石昌也 ※伊藤正子 ※岩月純一  
※小泉順子 ○末廣昭

## 中国禅宗語録の研究

主任：馬場紀寿

※橋本秀美 ※小川隆 ※衣川賢次 ※末木文美士 ※前川亨  
※喬志航 ※土屋太祐 ※泉経武 ※呉真

## 都市社会と宗教施設

主任：羽田正

○藤井恵介 ※私市正年 ※小松久男 ※林佳世子 ※三浦徹  
※深見奈緒子 ※山中由里子 森本一夫 榎屋友子  
※大田省一

## 中東の社会変容と思想運動

主任：長澤榮治

※池田美佐子 ※臼杵陽 ※岡野内正 ※加藤博 ※栗田禎子  
※齋藤久美子 ※鈴木恵美 ※長谷部圭彦 ※福田安志  
※堀井聡江 ※松本弘

## イスラーム思想の文献学的研究

主任：鎌田繁

※小林春夫 ○杉田英明 ○竹下政孝 ※東長靖 ※中田考  
※野元晋 ※藤井守男 ※菊地達也 ○吉田京子 ○高橋英海  
※仁子寿晴

## ペルシア語文化圏研究

主任：森本一夫

※近藤信彰 ※菅原睦 ※山岸智子 ※中西竜也 ※真下裕之  
※前田弘毅 ※山口昭彦 ※森山央朗

## イスラーム美術の諸相

主任：榎屋友子

※深見奈緒子 ※真道洋子 ※小林一枝 ※阿部克彦  
※山下王世 ※鎌田由美子 ※神田惟

## 比較歴史学の課題と方法

主任：羽田正

※伊藤幸司 ※藤田明良 ○村井章介 ※森平雅彦 ※高津孝  
※中島楽章 ※四日市康博 ○深沢克己

## 東アジアにおける「民俗学」の方法的課題

主任：菅豊

※中村淳 ※南根祐 ※中野泰 ○岩本通弥 ※周星  
※田村和彦 ※門田岳久 ※陳志勤 ※西村真志葉  
※小長谷英代 ※平山美雪

## D 外部資金による研究 (2011年度)

### 文部科学省・日本学術振興会科学研究費による研究調査

#### 園田茂人

「台頭する中産階級とその政治的・社会的インパクト：中印露比較研究」  
新学術領域研究 2009～2011

#### 佐藤 仁

「日本の被援助・開発経験の相互作用的研究——1950年代を中心に」  
新学術領域研究 2009～2011

#### 小川裕充

「美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究——全アジアから全世界へ」  
基盤研究(S) 2007～2011

#### 羽田 正

「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」  
基盤研究(S) 2009～2013

#### 田中明彦

「東アジアにおける地域協力枠組み発展の政治過程」  
基盤研究(A) 2009～2011

#### 安富 歩

「「共同体」概念に依拠しない秩序形成の理論歴史学～魂の脱植民地化の新しい展開～」  
基盤研究(A) 2009～2011

#### 長澤榮治

「IT時代における現代アラビア語の言語社会学的研究」  
基盤研究(B) 2009～2011

#### 松井 健

「工芸の生産・流通・消費とグローバリゼーション——新しい「工芸の人類学」の構想」  
基盤研究(B) 2009～2012

#### 中里成章

「インド・パキスタン分離独立の農村的起源——ベンガルの場合——」  
基盤研究(B) (海外) 2009～2011

#### 園田茂人

「中国と向き合って：日韓台対中進出企業の現地化プロセスに関する比較社会学的研究」  
基盤研究(B) 2009～2012

#### 菅 豊

「現代市民社会に対応する『公共民俗学』創成のための基礎研究」  
基盤研究(B) 2010～2012

#### 松田康博

「繁栄と自立のディレンマ—ポスト民主化台湾の国際政治経済学—」  
基盤研究(B) 2010～2012

#### 黒田明伸

「取引の一時性・季節性そして空間性がもたらす貨幣間の補完性についての国際共同研究」  
基盤研究(B) 2010～2013

#### 柳澤 悠

「独立後インドの消費変動：農村社会経済構造の長期変動との関連に注目して」  
基盤研究(B) 2010～2012

#### 名和克郎

「体制転換期ネパールにおける政治言語の流通と変容に関する言語人類学的研究」  
基盤研究(C) 2009～2011

#### 大木 康

「明清の王朝交替と杜詩学」  
基盤研究(C) 2010～2012

#### 池本幸生

「貧困削減における社会的企業のグローバルな役割：理論と実証」  
基盤研究(C) 2010～2012

#### 大野公賀

「李叔同（弘一法師）をめぐる日中文化交流の研究：中国の近代化と日本」  
基盤研究(C) 2011～2013

#### 古井龍介

「中世初期東インドにおける社会形成：規範の構築と諸社会集団間の交渉」  
若手研究(B) 2010～2013

#### 安田佳代

「東アジア国際衛生事業の展開と地域内国際協力枠組みの形成 1945—1965年」  
若手研究(B) 2011～2014

#### 馬場紀寿

「パリ註釈文献と北伝資料の比較分析による部派仏典の伝承史的研究」  
研究活動スタート支援 2010～2011

**鵜飼敦子**

「日本的なるもの」の受容と創造」  
研究活動スタート支援 2010～2011

**卯田宗平 (ASNET)**

「中国二大淡水湖における生活・生業転換の同質性と異質性：1949-2010」  
研究活動スタート支援 2011～2012

**その他の研究助成・奨学金****園田茂人**

旭硝子財団・ステップアップ助成 2009～2011  
現代中国における社会的安定性に関する研究：人の移動からのアプローチ

**馬場紀寿**

三島海運記念財団学術研究奨励金 2011  
ブダゴース作品の文献学的研究

**アジア・アフリカ学術基盤形成事業****園田茂人**

アジア比較社会研究のフロンティア 2010～2012

**ひらめき☆ときめきサイエンス  
～ようこそ大学の研究室へ「KAKENHI 事業～」****池本幸生**

社会貢献で世界を変えよう！ビジネスで「国際協力」  
2011

**日本関連在外資料調査研究事業****平勢隆郎**

近代日本文化財保護政策関係在外資料の調査と研究  
2010～2015

**田中明彦**

「日本政治・国際関係データベース」  
研究成果公開促進費(データベース) 2011

**黒田明伸**

トヨタ財団研究助成金 2010～2011  
社会的回路としての貨幣：匿名的通貨と指名的信用の相互補完性についての学際的研究

**田中明彦**

三菱財団人文科学研究助成金 2011  
環境サステナビリティの国際政治経済学：技術、パワー、交渉

**池本幸生 (ASNET)**

ケイパビリティ・アプローチによる貧困の学際的研究  
2011～2013



- 松本忠雄氏旧蔵書：日中関係など 3,000 冊
- 雙紅堂文庫：長澤規矩也氏旧蔵書 明清戯曲小説類漢籍 3,150 冊
- 清野文庫：清野謙次氏旧蔵書 人類学・考古学関係洋書 750 冊
- 矢吹慶輝氏旧蔵書：マニ教文献，仏教遺跡など洋書 305 点
- 下中文庫：下中弥三郎氏寄贈 第二次大戦後出版された中国書 4,500 冊，洋書 130 冊，中国雑誌 10 冊
- 東京銀行調査部旧蔵資料：和漢書・資料類 18,000 点
- 仁井田文庫：仁井田陞氏旧蔵書 漢籍・中国書 5,000 冊，和書 2,200 冊，洋書 120 冊，清代公・私文書類 900 余点，碑文拓本 50 基
- 我妻文庫：我妻栄氏旧蔵書 アジア法制関係文献資料 647 部 932 冊
- 倉石文庫：倉石武四郎氏旧蔵書 漢籍 4,433 点，中国書 2,300 点，和書 3,300 点，その他 676 点
- 江上文庫：江上波夫氏旧蔵書 歴史学・民族学・考古学関係 洋書 2,550 点
- Daiber Collection I, II：Hans Daiber 氏収集 12～20 世紀初頭にいたるイスラーム宗教・思想・歴史関係 アラビア語写本 490 点
- 文淵閣四庫全書影印本：1,501 冊
- オランダ植民地省公文書（1850～1921）索引およびジャワ官報（1928～1939）：（マイクロフィッシュ）
- 乾隆版大蔵経：清代に刊行された木版大蔵経：1,657 部
- Ouseley Collection：Gore Ouseley 卿旧蔵書 17～19 世紀西欧人のインド・中近東旅行記，ペルシア文学 60 点 106 冊
- Müteferrika Collection：オスマン朝時代の初期刊本 17 点
- 南アジア伝道教団資料集成：18～20 世紀の教団の年報，議事録，報告書など（マイクロフィッシュ）
- Indonesian Monographs 1945～1973：独立後インドネシア社会科学関係（マイクロフィッシュ）
- 今堀文庫：今堀誠二氏旧蔵書 近現代中国社会史・華僑関係資料漢籍 300 点，中国書 2,000 点，和洋書 260 点，文書 500 点
- 東アジア宗族社会史関係資料 朝鮮族譜集成 494 点 中国華南宗族社会史資料，南洋華僑・華人関係資料 2,263 点
- 中国西北文献叢書：中国西北地方の歴史・文学等基本文献
- オスマン語・トルコ語年鑑・定期刊行物コレクション
- 西アジア関連写本集成：ミンガナ・コレクション，ロンドン大学東洋アフリカ研究所など所蔵のアラビア語写本（マイクロフィッシュ）
- 中国第一歴史档案馆清代档案資料：清朝公文書（マイクロフィルム）
- 夕嵐草堂文庫：前野直彬氏旧蔵書 明清小説類 漢籍 500 点 4,400 冊
- 伊藤文庫：伊藤義教氏旧蔵書 古代・中世イラン学関係 和・洋書 849 冊
- 安田文庫旧蔵『論語』コレクション：安田弘氏寄贈 正平版を含む論語 9 点を柱とする漢籍 11 点
- 上村文庫：上村勝彦氏旧蔵書 サンスクリット詩学・宗教・哲学 サンスクリット語 658 点
- タイ語文献コレクション：友杉孝氏旧蔵書を中心に構成されたタイ語文献
- 荒木文庫：荒木茂氏収集波斯関係洋書 938 点 1,112 冊
- 両紅軒文庫：伊藤漱平氏旧蔵書 漢籍・中国書・和書・洋書 2,246 冊
- 滝川勉文庫：滝川勉氏旧蔵書 和書・洋書 2,050 冊
- 山崎文庫：山崎利男氏旧蔵書 和書・洋書 489 冊

## 4 図書の利用 と保存

### (1) 図書の利用状況

開架スペースには研究所刊行物、所員の著作、参考書、新着雑誌を配架し、他の蔵書はすべて書庫に配架しています。閲覧希望の図書資料はカウンターで出納します。蔵書は原則として貸出していません。

2010・2011年度開室日数・閲覧者数は次のとおりです。

|          | 2010年度* | 2011年度 |
|----------|---------|--------|
| 開室日(日)   | 216     | 228    |
| 学内閲覧者(人) | 2,176   | 2,709  |
| 学外閲覧者(人) | 1,642   | 1,443  |

\*3月11日の東日本大震災のため、3月14日から4月1日まで閉室しました。

### (2) 貴重図書の保存・複製・閲覧

本研究所の所蔵資料には貴重なものが多く、かつ、それらはアジア研究において不可欠なものです。一方ではこれら図書資料を保存しなければならず、他方では閲覧に供してアジア研究を支えていく責任があります。保存に特に注意を払っている特別貴重書は1,300余点所蔵しています(2012年3月現在)。古い書籍には既に破損していたり、劣化が進んでいるものもあります。

現在、貴重書の保存と利用を両立させるために、マイクロフィルム等光学的複製化、複製本作成、デジタル化など貴重書の複製化を進めています。ただし、この作業には多大な時間と費用とを要します。利用者の広い支援と協力をお願いします。

こうした作業のひとつの成果として2006年度に「アジア古籍電子図書館」をインターネット上に公開し、「漢籍善本全文映像資料庫」、「アラビア語写本ダイバーコレクションデータベース」をはじめ貴重書全文を遠隔地からも利用していただけるようになりました(20~21ページ参照)。2007・2008年度には「雙紅堂文庫全文映像資料庫」も追加しました。

<http://imglib.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

なお本研究所蔵書の目録や影印本の出版は、本研究所事業のほか、内外の研究機関・出版社においても進められています。

### (3) 講演会

図書室企画で2009、2010年度に講演会「はじめての漢籍」を開催し、2011年5月に講演記録集を刊行しました。2011年度には漢字圏、梵字圏、アラビア文字圏の言語・文字文化をテーマに講演会「言語、文字、書くものと書かれるもの」を開催しました。



講演会「言語、文字、書くものと書かれるもの」  
(2011年11月9日)

閲覧 一般図書・貴重書

どなたでも閲覧いただけますが、大学等研究機関に所属されていない方は、事前に所蔵図書資料閲覧申請書を出していただきます。

特別貴重書

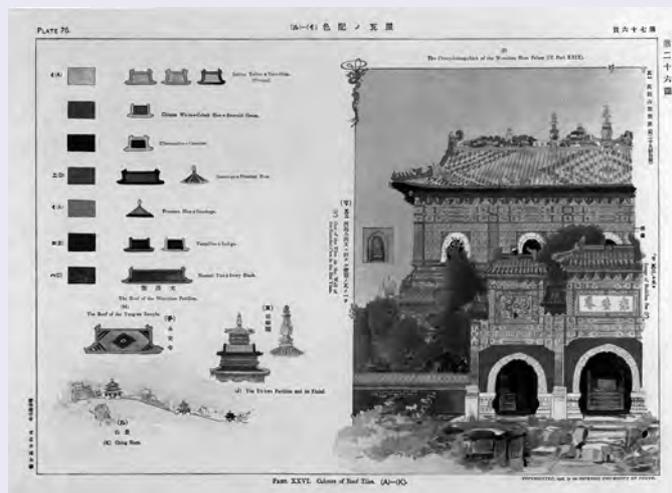
原則として複製を利用していただきます（複製があるものに限り）。研究・教育上原本の閲覧が特に必要な場合には、特別貴重書閲覧申請書をお出しいただき、審査のうえ、ご利用いただきます。保存状態などにより原本の閲覧ができない場合があります。

複写・掲載 複写

申請のうえ複写することができます。線装本貴重書・特別貴重書等は写真撮影により複製することができます。ネガフィルムは本研究所で保存します。なお、著作物の二分の一以上の複写は全頁複写扱いとなり、個人には認められません。

出版掲載許可申請・放映許可申請

複写した画像を出版物に掲載したり、ウェブサイト上で公開したりする場合には、あらかじめ出版掲載許可を申請願います。テレビ等で放映する場合も同様です。出版物の場合には1部、テレビ番組等の場合には録画記録媒体1部をご提供願います。なお、ウェブサイト上での公開の場合には、URLの通知および公開した部分の画像のハードコピー1部をご提供願います。



北京皇城建築裝飾

# 東洋学研究情報センター

## センターの 目的・沿革

東洋学研究情報センターは、旧東洋学文献センター（1966年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、1999年4月1日に新設されました。現在のセンターは、旧センターの東アジアを中心とする豊かな活動実績を継承しつつ、対象地域をアジア全域に拡大し、従来からの文献資料学分野、新設された造形資料学分野、さらには2009年度から増設されたアジア社会・情報分野の3分野から「アジア資料学」の確立を目指しています。また、2010年度に共同利用・共同研究拠点の認定を受け、国内外の大学及びその他の研究機関研究者との共同研究を進め、蓄積されてきたアジア諸資料の共同利用を推進しています。

## 研究活動

アジア研究の比較資料、造形、社会・情報からなる3分野の資料の収集と管理、及びこれらの資料のデータベースの構築と資料学的研究を実施しています。以上に加えて、アジア研究に関する情報を収集・整理・蓄積・公開することを目指す研究情報プロジェクトを2003年度から開始しました。

センター長 大木 康

副センター長 園田 茂人

### 造形資料学分野

美術作品・建築・考古資料・民俗学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を研究対象としています。

教授 柘屋 友子 (兼任)

准教授 板倉 聖哲 (兼任)

### 比較文献資料学分野

アジア諸言語で書かれた書籍・新聞雑誌・文書・碑文等の文字資料を研究対象としています。

教授 大木 康 (兼任)

准教授 名和 克郎 (兼任)

### アジア社会・情報分野

アジア・バロメーターなどのデジタル化された社会調査資料やインタビュー記録などを研究対象としています。

教授 園田 茂人 (兼任)

教授 松田 康博 (兼任)

## センターの主要な活動

センターは、アジア学関連資料を収集・整理するデータベースプロジェクトに加えて、アジア研究に関する情報を組織化し発信するプロジェクトを進めています。

### アジア研究 情報 Gateway

<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/asj/>

日本におけるアジア学の研究情報を総合的に組織化し、発信することを目的としたホームページです。アジア各国の書店・図書館情報・留学情報のほか、「論集～アジア学の最前線」には各種の研究エッセイを掲載し、若手アジア研究者の研究情報や意見の交換の場を目指しています。



エジプト カイロの書店情報

### アジア・ バロメーター

<https://www.asiabarometer.org/ja/index>

アジアの「普通の人々の日常生活」を定点観測するプロジェクト。2003年から2008年にかけてアジア全域で行われた世論調査を整理・蓄積し、これを利用した研究成果を刊行・発表しています。2009年度でようやく統一的なデータベースが完成し、各種プロジェクトを通じて成果の刊行が期待されています。

### 漢籍整理長期 研修

全国の大学図書館等職員に、漢籍の整理技術を普及する目的で実施しています。10日間にわたる講義と実習は、四部分類・目録法概説から、朝鮮本・和刻本の知識、漢籍補修法に至るまで、幅広い関連知識を習得できるように計画されています。1980年の開始以来、約83機関、240名以上が受講しました。

### アジア・アフリカ学術基盤 形成事業

「アジア比較社会研究フロンティア」

<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/aasplatform/main.html>

東洋学研究情報センターが2010年度に共同利用・共同研究拠点化されたのを契機に、2009年に新設されたアジア社会・情報分野を基盤にして、高麗大学校（韓国）や中国社会科学院（中国）、中央研究院（台湾）、シンガポール国立大学（シンガポール）を相手国拠点機関に、従来データベースの欠如ゆえに本格的に展開されることの少なかったアジアを対象にした比較社会学的研究を進めていく3年プロジェクト「アジア比較社会研究のフロンティア」をスタートさせました。同プロジェクトは、2010年度日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業に採択され、現在進みつつある東アジア域内での社会学研究者の交流を加速させ、アジア社会学の可能性をめぐってさまざまな検討を加えることを目的としています。その具体的な研究成果やイベントなどは、逐次ホームページで紹介されています。

# データベースプロジェクト

## アジア古籍電子図書館

<http://imglib.ioc.u-tokyo.ac.jp>

本研究は、文化財としての漢籍善本の保存とともに、多くの研究者の研究に資するため、世界に先駆けて資料をネットワーク上で試験的に公開することを決断しました。国内外の諸研究機関・図書館が、同様の試みを積極的にすすめ、将来的には、仮想空間上に国際的に連携した善本漢籍影像資料庫が構築されることを願っています。(16 ページ参照。)



アジア古籍電子図書館データベース



目録のページ

## インド史跡調査団データベース

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html>

1960年代初頭に東京大学インド史跡調査団が行ったデリーを中心としたインドのイスラーム建築の写真、図面、拓本などの資料をデジタル化し、都市別、建物別に公開しています。



インド史跡調査団

## データベース『世界と日本』

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html>

戦後日本の政治や国際関係についてのデータベースです。重要文献、演説、出来事、略語などを調べることができます。



データベース「世界と日本」



20世紀・21世紀年表検索ページ

ダイバーコレクションデータベース

[http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db\\_index.html](http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.html)

イスラーム史料写本を電子化した全内容をオリジナルカタログと併せて利用できます。

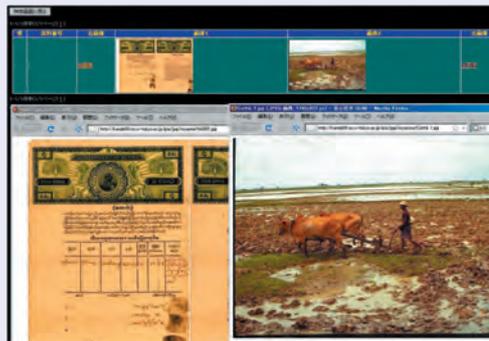


ダイバーコレクションデータベース

植民地期ビルマの土地関係資料データベース

<http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/hasbi/index.html>

英領ビルマで作成された契約文書（7,000 枚以上）の一部の電子画像を現在の農村風景と連動させて公開しています。



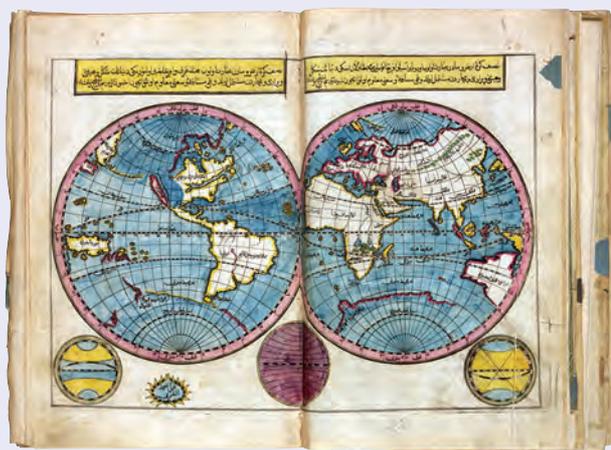
植民地期ビルマの土地関係資料データベース

その他のプロジェクト

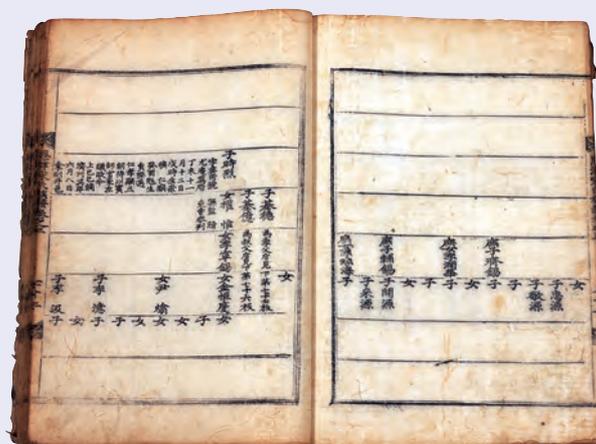
- 漢籍知識庫の構築と国際共同運用への試み
- 台湾現代史貴重史料の収集・整理
- 日ネ協会旧蔵資料データベース構築
- 東アジア絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト
- アジア美術画像アーカイブ（第3期）
- 東文研蔵貴重物品の整理とデジタル化
- アジアバロメーターによる先導的アジア比較研究の刊行事業
- 社会生態史学のためのデータベース構築
- イスラーム美術・建築作品の画像・情報アーカイブ
- Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書プロジェクト（eDic）
- 江戸・明・古代プロジェクト

# 所蔵資料

オロン・スム出土の彩釉鬼瓦下顎（中国・内モンゴル自治区，元代）  
 1935, 39, 41年の、江上波夫氏らによる調査において採集された。先に破片の一部が報告されているが、近年の再整理で破片数点が接合し、下顎全体の形が明らかになった。



世界地図：キヤーティフ・チェレヴィィ『ジハンニューマ』（イスタンブル，1732年）より。



《恩津宋氏族譜》  
 本研究所に蔵する朝鮮族譜コレクションのうちの一つで、族譜編纂史上初期に属する形態を示す。

# アジアのフィールド調査



**香港新界錦田鄧氏一族の祠堂**

香港新界の農村には、村の中央に一族代々の位牌をまつた祠堂がある。錦田の鄧氏は土地の名族である。(撮影：大木康)



**翰林院庶吉士の扁額**

錦田鄧氏の一族から、科擧の高位合格者である翰林院庶吉士が輩出したことを示す扁額。祠堂の中に掲げられる。(撮影：大木康)



**革命グッズを売る露天商**

カイロ・タハリール広場。国旗や「エジプト愛」マークのコップ、Tシャツ、ステッカーなどが売られている。(撮影：長澤榮治)



**軍政批判スローガンを掲げる男性**

カイロ・タハリール広場。非常事態令撤廃の金曜日。「(革命の)破壊、裏切り、脅迫……は許さないぞ」などと記載。(撮影：長澤榮治)



**アナンタヴァースデーヴァ寺院の台所**

インド・ブバネーシュワル。12世紀建立の寺院では今も大量の料理が準備され、神格のお下がりとして配られる。(撮影：古井龍介)



**漁を行なわない時期の鵜匠とウ**

岐阜県岐阜市。鵜飼いを行なわない時期、長良川の鵜匠たちは一日一回アイナメ科ホッケをウに与える。(撮影：卯田宗平)

# 東洋文化研究所刊行物

本研究所では、『東洋文化研究所研究報告』をはじめさまざまな形態の書籍、および雑誌『東洋文化研究所紀要』・『東洋文化』を刊行し、アジアに関するさまざまな学問の最新の研究成果と情報を発信しています。

## 1. 研究報告

### 『東洋文化研究所紀要別冊』

本研究所のスタッフの研究成果を収めたモノグラフ・シリーズです。通算の刊行数は66冊に達しています。2010年度の刊行は以下の通りです。

- 平勢隆郎『「八紘」とは何か』(2012年3月)
- 長澤榮治『アラブ革命の遺産』(2012年3月)

### その他

本研究所では、アジア研究のレファレンス叢書としての『東洋文化研究所叢刊』、さらに調査報告、蔵書目録、記念論集等、さまざまな出版物を随時刊行しています。

- 鈴木董『オスマン帝国史の諸相』(2012年3月 東洋文化研究所叢刊 26)



## 2. 雑誌

### 『東洋文化研究所紀要』

本研究所の紀要として、本研究所スタッフおよび研究協力者等による最新の学術的成果に基づく論文を掲載しています。年2回刊行。2011年度の刊行は以下のとおりです。(掲載内容については、41ページを参照。)

第160冊 (2011年12月) 第161冊 (2012年3月)



### 『東洋文化』

各号に特集を設け、本研究所のスタッフを中心としたさまざまな共同研究の成果を発信しています。年1回刊行。2011年度の刊行は以下のとおりです。(42ページを参照。)

- 第92号 特集 魂の脱植民地化(3)——「呪縛」からの脱却・「箱」の外に出る勇気——(2012年3月)



## International Journal of Asian Studies (IJAS)

東洋文化研究所は、これまでのアジア研究のセンターとしての蓄積を踏まえ、*International Journal of Asian Studies* (IJAS) を刊行しています。

IJAS はアジアに関する主に人文・社会科学の研究成果を公刊する、国際的かつ学際的な英語による学術誌です。全世界から原稿を募集し、ケンブリッジ大学出版局から年2回刊行されます。

第1巻第1号は2004年1月に出版され、第9巻第1号(2012年1月)まで順調に刊行されています。(掲載内容については、42~43ページを参照。)

IJAS はアジアを地域として見る視点から、個々の国を越えたパターンや傾向を探る研究を重視しています。また、双方向的な研究交流を図る立場から、従来主にアジア諸語で業績を残してきたアジアの研究者を重視し、その優れた研究業績を英語圏の研究者の間に紹介する役割も果たしていきます。

投稿規定等詳細につきましては、本研究所ホームページをご覧ください。



## 東洋学研究情報センター刊行物

センターは、『東洋学研究情報センター叢刊』およびニュースレター『明日の東洋学』を刊行しています。

### 『東洋学研究 情報センター 叢刊』

アジア研究のレファレンス叢書として定評のあった『東洋学文献センター叢刊』を引き継ぐシリーズです。従来の目録刊行から、共同利用・共同研究拠点の成果刊行へと、徐々にシフトしています。2011年度に刊行されたのは以下のとおりです。

第14輯  
勃興する東アジアの中産階級—アジア比較社会研究のフロンティアI 2012

### ニュースレター 『明日の東洋 学』

センター事業の紹介、および国内外の研究者によるエッセイを掲載し、アジア学をめぐる最先端の話題を読みやすい形で提供しています。年2冊刊行で、2011年度にはNo. 26とNo. 27を刊行しました。バックナンバーはセンターのホームページからダウンロードできます。

<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

# 公開講座・研究会等

本研究所では、多様な研究成果をさまざまな形で社会に還元するため、多彩な講座、研究会、セミナー、シンポジウムを公開で開催しています。最新の情報については、本研究所のホームページをご覧ください。

## 1. 公開講座

「アジアを知れば世界が見える」を基本コンセプトとして、研究所が長年蓄えてきた知的ストックをもとにして、研究所スタッフがわかりやすく解説する公開講座を毎年開催しています。2011年度は第11回「アジアを知れば世界が見える—アジアの覚」の統一テーマで2011年10月22日に実施しました。講師・講演タイトルは以下のとおりです。

佐藤 仁「資源保全への目覚めと日本近代」

馬場紀寿「沙門ゴータマの目覚め—古代インドと初期仏教—」

これまでの公開講座統一テーマ一覧

- 第1回 アジアの藝 (2001年)
- 第2回 アジアの心 (2002年)
- 第3回 アジアの交 (2003年)
- 第4回 アジアの絆 (2004年)
- 第5回 アジアの富 (2005年)
- 第6回 アジアの暦 (2006年)
- 第7回 アジアの界 (2007年)
- 第8回 アジアの濤 (2008年)
- 第9回 アジアの習 (2009年)
- 第10回 アジアの奇 (2010年)



## 2. 定例研究会

2011年度

羽田 正 「新しい世界史の構想」

高見澤 磨 「調停から見る中国近世・近代法史及び現代法」

シルツ ミハエル “Money on the Road to Empire—the case for Japan’s gold standard, 1897”

板倉 聖哲 「朝鮮絵画の「発見現場」と鑑定システム—新出作品の紹介を兼ねて」

## 3. 最終研究発表会

尾崎 文昭 「魯迅の小説『故事新編』についての議論を再検討する」

加納 啓良 「水田とプランテーションから見たインドネシア現代史」

鈴木 董 「文字世界としての文化世界・アラビア文字世界としてのイスラム世界・そしてオスマン帝国—比較史への我が道の一到達点—」



#### 4. 東文研シンポジウム, 東文研セミナー

本研究所では、最先端の研究成果を研究者間で広く共有し社会に向けて発信すべく、一般公開の「東文研シンポジウム」「東文研セミナー」を随時開催しています。2011年度には9回の東文研シンポジウム、27回の東文研セミナーを開催しました。

シンポジウム、セミナーの内容は、本研究所のプログラムや班研究の成果発表から、書評会に至るまで、バラエティに富んでいます。

次に2011年度の東文研シンポジウムの全タイトルを挙げます。

- 関野貞資料と都城の世界
- 二度の“世紀交代期”：現代中国の思想文化の転形
- 多言語状況の中の東アジア近代国家—言語問題にどう対処したか
- 公共民俗学とはなにか—社会における知的実践のかたち—
- 中国アイデンティティの模索—中国価値論と文化自覚論再考
- 世界史/グローバルヒストリーの文脈における地域史：文化史における事例研究
- 世界貨幣史と貨幣論の再構築
- コリアン・ディアスポラの記憶を手繰る—『犠牲の状況』を超えて—
- 「魂の脱植民地化」を考えるコンポジウム「原発事故で何が吹き飛んだか？～日本社会の隠蔽構造とその露呈～」

#### 5. 東文研・ASNET 共催セミナー

東洋文化研究所は後述（32頁）のように2010年5月より、「日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（Network for Education and Research on Asia）」（通称 ASNET）と共催で、主に研究所1階ロビーにて毎週木曜日にセミナーを開催しています。

以下に2011年度の東文研・ASNET 共催セミナーの全タイトルを紹介します。

- 普林斯顿修行生活顛末
- 経営戦略における伝統の拘束性—『老舗』をめぐる経営文化論—
- 東南アジア国際関係における規範をどのように理解するか？—外交当事者の見る ASEAN と研究者の見る ASEAN—
- 地域に根ざす有機農業—日本と韓国の経験
- 自発的なヴェール着用をどう読み解くか—夢に関する『語り』からの一考察
- 国家と対峙する宗教—アルジェリア・ウラマー協会におけるイスラームと政治
- イランにおける「新天文学」の受容：19世紀ペルシア語天文書『形象学訳稿 Tarjome-ye Hei'at』を中心に
- ジャポニズムかアジアニズムか—異文化交渉史研究の再考
- 人間開発アプローチの有効性と課題：客観的幸福指標の可能性
- 自己承認と宗教をめぐる試論—「イスラーム電話」の電話相談を事例として
- 碑文から何を読み取れるのか？—3点のパーラ期碑文を例に—
- A corpus-based sociolinguistic study of early modern Chinese scientific translations
- イェール大学の一年間：研究・教育・戦略の再構築
- アマルティア・センの『正義のアイデア』
- 資源統治と国家権力
- ドキュメンタリー映画を見る（第1弾）『懐かしい未来：ラダックから学ぶ』
- ドキュメンタリー映画を見る（第2弾）『それでも種をまく』
- オスマン帝国と立憲政
- 復興支援ツーリズムの可能性

計19回（詳しくは <http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/> をご覧ください）

# 国際交流

国際交流は、アジア研究のセンターとしての研究所の活動の中核をなすものです。所員の外国出張はもとより、各国の大学との学術交流協定の締結、多くの外国人外研究者の受け入れなど、さまざまな形で交流を行ってきました。

## 1. 国際学術交流室

国際学術交流室は、本研究所の国際学術交流を推進するため2001年に新たに設置されました。本研究所が編集の中核を担い、ケンブリッジ大学出版局から2004年に刊行が開始された英文の国際学術雑誌 *International Journal of Asian Studies* の編集業務、協定を結んでいる研究機関との交流の推進などの業務を遂行し、本研究所の国際学術交流の中核としての役割を担っています。

## 2. 交流協定

本研究所は、東京大学と中国・復旦大学（1991-）およびシンガポール国立大学（2006-）との学術交流協定の担当部局として、両大学との交流の中核を担っています。

また本研究所は、フランス高等研究院（2005-）、ブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部（2005-）、台湾・中央研究院社会学研究所及び人文社会科学研究中心付属アジア太平洋地域研究センター（2010-）、イタリア・ナポリ東洋大学（2011-）との間で部局間交流協定を結び、世界各国の研究者との交流を積極的に推進しています。

## 3. 学術交流協定

### 復旦大学文史研究院、プリンストン大学東アジア学部・研究所との学術交流協定

本研究所は復旦大学文史研究院、プリンストン大学東アジア学部・研究所との三者間で、学術交流コンソーシアム協定を締結しました。2010年6月7日に、復旦大学文史研究院の設立三周年を記念する会合が開かれ、これに合わせて設定された協定調印式に本研究所の羽田正前所長が出席し、復旦大学の葛兆光文史研究院長、プリンストン大学のベンジャミン・エルマン（Benjamin Elman）東アジア学部・研究所長とともに協定合意書に署名しました。

このコンソーシアムは大学や研究機関間の一般的な学術交流協定よりもさらに踏み込み、三者間の密接な協力によってアジア研究を積極的に進めようとするものです。2011年12月には、本学にて第一回の三機関合同の国際シンポジウムを開催しました。同シンポジウムは、2012年度は復旦大学で、2013年度にはプリンストン大学で開催します。本研究所では今後も、この協定の精神に則って、研究者の交流や定期的な学術会議の開催、共同出版、文史研究院での当研究所教員の講義や指導などの事業を着実に展開していきます。

## 4. 北京大学歴史学系との学術交流

本研究所は2010年度より北京大学歴史系との間で、研究者の交流や書籍の交換、ホームページ上の交流など、様々な学術交流を推進しています。2010年には羽田正前所長が北京大学を訪問し、本研究所スタッフによる第一回講演を行い、北京大学歴史系からは、牛大勇教授、包茂紅副教授が本研究所を訪れ、講演会が開催されました。また2011年度には、安富歩教授が北京大学を訪れ、第二回講演を行いました。本研究所は、北京大学歴史系との間で、研究成果を相互に報告しあい、活発な意見交換を行う機会をこれまで以上に多く作っていきます。

## 5. 外国出張

研究所スタッフの外国出張の件数は、2010年度128件、2011年度131件にのぼりました。

## 6. 海外との 図書 の寄贈・交換

海外の研究機関との間で、『東洋文化研究所紀要』、『東洋文化』、『センター叢刊』、『明日の東洋学』等の本研究所およびセンター発行の図書の寄贈並びに交換を行っています。寄贈・交換先は32か国、382機関に及んでいます。なお、国内については260機関と寄贈・交換を行っています。

## 7. 外国人研 究者等の 受け入れ

### 金 氣興

(日本学術振興会外国人特別研究員, 2009/9/1~2011/8/31)

### 金 銀眞

(日本学術振興会外国人特別研究員, 2009/10/1~2011/9/30)

### 呉 真

(南開大学専任講師, 2010/3/1~2012/2/28)

### Sylvie Beaud ep. Kobayashi

(Anthropology University of Paris Ouest Nanterre Ph. D. Candidate 2010/6/1~2012/5/31)

### 馬 長山

(黒龍江大学・法学院教授, 2010/7/1~2011/6/30)

### Aaron M. Rio

(コロロンビア大学大学院美術史考古学博士課程, 2010/8/1~2012/7/31)

### Winifred Chang

(History Department, University of California, Los Angeles Ph. D. Candidate 2010/9/1~2011/8/31)

### 那仁朝格図

(内蒙古大学法学院教授, 2010/10/1~2011/9/30)

### Safaa Mahmoud Mohamed Nour

(カイロ大学文学部日本学科助講師, 2010/10/1~2011/11/30)

### William C. Hedberg

(ハーバード大学東洋文化文明学部 Ph. D. Candidate, 2011/1/1~2011/7/10)

### 紀 萌

(日本学術振興会外国人特別研究員, 2010/10/1~2012/3/31)

### Hendrika Rengganis Wulandari Rimmelink

(University of Leiden Research PhD thesis/Scaliger Fellow, 2011/4/1~2012/3/31)

### 戴 振豊

(台湾行政院・国家科学委員会補助赴国外従事博士後(海外ポスドク), 2011/4/1~2012/3/31)

### 宋 声泉

(南開大学文学院中国語文学系博士課程生, 2011/8/1~2012/9/14)

### 李 霖

(北京大学歴史学系博士課程, 2012/1/4~2012/3/31)

### 陳 泳超

(北京大学・中文系教授, 2011/4/1~2012/3/31)

### 施 愛東

(中国社会科学院文学研究所副研究員, 2011/4/11~2011/7/10, 2011/9/15~2011/10/15)

### Ursula Weiss

(C. G. Jung Institute Director of Studies, Accredited Analyst, 2011/4/15~2012/4/14)

### Benjamin Abraham Elman

(プリンストン大学東アジア研究部門主任教授, 2011/6/2~2011/6/8)

### 牛 大勇

(北京大学歴史学系教授, 2011/6/10~2011/11/1)

### Rachel Saunders

(ボストン美術館学芸員, 2011/10/4~2013/10/3)

### Victoria Lee

(Princeton University, Department of East Asian Studies Ph. D. candidate, 2011/6/15~2012/8/31)

### Andrew Cock

(Monash Asia Institute, Monash University, Australia Adjunct Fellow, 日本学術振興会特別研究員, 2011/7/1~2014/3/31)

### Georges Depeyrot

(Chargé de recherche (1er classe) au CNRS, 2011/7/1~2011/10/30)

### Kerim Yasar

(Princeton University, East Asian Studies Cotzen Post-Doctoral Fellow, 2011/7/1~2011/7/31)

### Emmanuel Adiole

(Institute of Energy, Nigeria Director of Research, 2011/7/6~2011/9/1)

### Gaynor Sekimori

(元本研究所教員, 2011/7/21~2011/8/9)

### 陳 玉文

(台湾中央研究院政治学研究所助研究員, 2011/8/14~2011/9/8)

### 袁 琛

(復旦大学中国語文学系 博士課程学生, 2012/2/6~2012/5/4)

### 王 元崇

(Cornell University Candidate of Doctor, 2011/8/22~2012/8/21)

### SHIRANE, Seiji

(Princeton University, Department of East Asian Studies Ph. D. candidate 2011/9/1~2012/8/31)

### Megan Elizabeth Hill

(University of Michigan Ph. D. Candidate, 2011/9/16~2012/9/15)

### 董 少新

(復旦大学文史研究院副研究員, 2011/12/12~2012/1/20)

### 朱 溢

(復旦大学文史研究院副研究員, 2011/12/12~2012/1/20)

### 蔡 敦達

(同濟大学外国語学院教授, 2011/12/15~2012/8/31)

### Michael Dylan Foster

(Indiana University Department of Folklore & Ethnomusicology Assistant Professor, 2011/12/22~2012/8/21)

### 寿 舒舒

(浙江経貿職業技術学院大学講師, 2012/1/16~2012/2/11)

### 葉 高樹

(国立台湾師範大学歴史系副教授, 2012/2/1~2012/7/31)

### Lee, Cheuk-yin

(Department of Chinese Studies, National University of Singapore Professor, 2012/2/1~2012/2/11)

### 郭 震遠

(中国国際問題研究所研究員, 2012/3/13~2012/4/9)

### Marshall Craig

(University of Oxford D. Phil. Candidate, 2012/4/1~2013/3/31)

### Jennifer Thea Gordon

(Center for Middle Eastern Studies & History Department, Harvard University, PhD Candidate, 2012/5/16~2012/8/31)

# 教育・国内交流

## 1. 大学院教育

本研究所は以下の研究科の協力講座として、大学院教育を担当しています。

| 研究科     | 専攻       | 講座名                    |
|---------|----------|------------------------|
| 人文社会系   | 基礎文化研究   | 東アジア美術史学               |
|         | アジア文化研究  | 比較アジア社会文化研究            |
|         |          | 南アジア社会文化研究, 西アジア社会文化研究 |
| 法学政治学   | 総合法政     | 学際政治学                  |
| 経済学     | 現代経済     | アジア経済                  |
|         | 経済史      | 産業社会史                  |
| 総合文化    | 超域文化科学   | 比較民族誌                  |
|         | 地域文化研究   | 環インド洋地域文化              |
| 農学生命科学  | 農業・資源経済学 | 汎アジア経済論                |
| 新領域創成科学 | 国際協力学    | 地域間連携・交流               |
| 学際情報学府  | 学際情報学    |                        |

大学院における授業担当教員および指導学生数は以下のとおりです。

| 研究科     | 2010 |    |      |     | 2011 |    |      |     |
|---------|------|----|------|-----|------|----|------|-----|
|         | 授業担当 |    | 指導学生 |     | 授業担当 |    | 指導学生 |     |
|         |      | 修士 | 博士   | 研究生 |      | 修士 | 博士   | 研究生 |
| 人文社会    | 17   | 10 | 23   |     | 25   | 6  | 22   | 2   |
| 法学政治学   | 5    | 3  | 7    | 1   | 4    | 3  | 4    | 2   |
| 経済学     | 2    |    |      |     | 6    |    |      |     |
| 総合文化    | 9    | 2  | 11   | 1   | 9    | 3  | 8    | 1   |
| 農学生命科学  | 2    | 2  | 3    |     | 2    | 4  | 3    | 2   |
| 新領域創成科学 | 3    | 12 | 10   |     | 4    | 12 | 11   |     |
| 学際情報学府  | 3    | 1  | 1    | 1   | 5    | 5  | 2    |     |
| 公共政策学   |      |    |      |     | 3    |    |      |     |
| (ASNET) | 11   |    |      |     | 12   |    |      |     |

## 2. 学部担当

本研究所では、多くの教員が様々な学部で3、4年生を対象とした講義を行っています。また、学部1、2年生を対象とした「全学自由研究ゼミナール」も担当しています。

| 学部 | 2010 | 2011 |
|----|------|------|
| 法  | 3    | 3    |
| 工  | 1    | 1    |
| 文  | 5    | 13   |
| 農  | 1    | 1    |
| 経  |      | 1    |
| 教養 | 7    | 8    |
| 全学 |      | 1    |

### 3. 日本学術振興会特別研究員(PD)の受入れ

| 氏名    | 年度    | 研究課題                                 |
|-------|-------|--------------------------------------|
| 吉田 真吾 | 2010- | 日米同盟の制度化：その歴史的展開と因果メカニズム             |
| 内藤まりこ | 2010- | 七夕伝説をめぐる物語文化圏の研究                     |
| 高橋絵里香 | 2011- | フィンランドの家族介護とイエ・親族—福祉国家における老いの人類学的研究— |
| 湯川 拓  | 2011- | ASEAN における規範の変容とその国内的要因              |
| 平位 匡  | 2011- | 人間開発と幸福：人間開発の広範な概念把握へ向けた幸福の客観的考察     |
| 塚原 伸治 | 2011- | 社会的・歴史的に拘束される商行為と経営戦略に関する現代民俗学的研究    |
| 諫早 庸一 | 2011- | 13-14 世紀ペルシア語文化圏における時間計測の精密化について     |



特別研究員 渡邊祥子



特別研究員 諫早庸一



特別研究員 平位匡

東文研・ASNET 共催セミナーより

#### 4. 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（通称ASNET）との協力

「日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（Network for Education and Research on Asia）」（以下、ASNET）は、日本を含むアジアを対象とする研究者が部局の枠を超えて集まり、新しい教育や研究を推進するために設立された東京大学の機構です。

東洋文化研究所は、2001年にこのネットワークがASNET（Asian Studies Network）として設立された時から事務局を担い、2005年に国際連携本部ASNET推進室に改組された後も支援を行ってきました。そして2010年に東京大学の機構へと発展したのを機に事務担当部局となり、本研究所からは池本と安田がそれぞれ副ネットワーク長と兼任教員として参加しています。

ASNETの教育活動としては、2006年度から東京大学の大学院生向けにアジア教育を実施し、2009年度には全学の大学院横断型教育プログラム『日本・アジア学』を開始しました。この教育プログラムは、アジアについて部局や分野を越えて新たに体系化・総合化したもので、意欲ある大学院生が、所属する研究科の教育カリキュラムに加えて履修するものです。2011年度は、アジアを学際的に理解する総合科目群を計36科目、アジアの様々な言語を学ぶ言語科目群を93科目開講し、研究所教員も毎年10科目以上を担当しています。

研究活動としては、シンポジウムやセミナーを開催する他、2010年5月から本研究所とASNETとの共催で毎週木曜日の午後5時から本研究所でセミナーを開催しています。この共催セミナーは、主に東京大学に所属し、アジア研究に携わる若手研究者等に研究発表の場を提供するとともに、若手研究者同士の交流を促進する目的で開始され、2012年3月までの約2年間に46回開催しています。

ASNETでは、2005年1月からアジア研究に関連するシンポジウムや研究会、図書等の情報をメールマガジンに掲載して毎週金曜日に発信しています。メールマガジンの購読者数は2011年度末の時点で900名を超えています。また、ASNETのホームページでもアジア研究に関わる最新の情報を掲載し、日々更新しています。東文研の教員が開催する研究会等の情報をASNETのホームページやメールマガジンによって研究者のみならず一般の人びとも公開しています。

また、ASNETに参画する東文研の教員の協力により東京大学学部生向け総合科目「日本・アジア学概論：国際社会で活躍する基盤を身に付ける」を駒場キャンパスで開講しています。この科目は、「日本・アジア学」の概論と位置づけられ、さまざまな視点からアジアを切り取る方法論や知識を学ぶものです。この科目では、タイ、インドネシア、中国といったアジアの国々を地域研究の対象としている東文研の教員がそれぞれの社会の歴史の変遷や現在直面している問題を学部生に分かりやすく解説しています。

ASNETは、日本学術振興会の『アジア・アフリカ学術基盤形成事業』として「ケイパビリティ・アプローチによる貧困の学際的研究」（2011-2013年度）を実施し、日本とタイ、ラオス、カンボジア、ベトナムの研究者と交流ネットワークを築き、「貧困」をテーマに共同研究やセミナーを実施しています。この活動の報告はASNETのホームページで紹介しています。

東洋文化研究所は、今後もASNETの発展に積極的に協力していきます。



研究科等横断型教育プログラム「日本・アジア学」平成24年度シラバス



東文研・ASNET 共催セミナー（毎週木曜日開催）

# 資料篇

## 現教職員 (2012年4月1日現在)

所長 大木 康  
副所長 池本 幸生

### 汎アジア部門

松井 健 教授  
池本 幸生 教授  
卯田 宗平 特任講師(兼)  
田中 明彦 教授(委嘱)  
松田 康博 教授(兼)  
安田 佳代 助 教  
名和 克郎 准教授

### 東アジア部門 (第一)

高見澤 磨 教授  
安富 歩 教授  
黒田 明伸 教授  
真鍋 祐子 教授  
平勢 隆郎 教授  
小寺 敦 准教授

### 東アジア部門 (第二)

ブルチャー ミハエル・  
フランク 特任准教授(兼)  
大木 康 教授  
小川 裕充 教授  
板倉 聖哲 准教授

### 南アジア部門

高橋 昭雄 教授  
古井 龍介 准教授  
永ノ尾信悟 教授  
馬場 紀寿 准教授

### 西アジア部門

長澤 榮治 教授  
羽田 正 教授  
榎屋 友子 教授  
鎌田 繁 教授  
森本 一夫 准教授(兼)

### 新世代アジア部門

菅 豊 教授  
佐藤 仁 准教授  
園田 茂人 教授(兼)  
チャーニー マイケル・  
ウォルター 特任教授  
シルツ ミハエル 准教授  
李 賢鮮 准教授

### 国際学術交流室

チャード ロバート・  
ローレンス 准教授  
大野 公賀 特任准教授

### 附属東洋学研究情報 センター

センター長  
大木 康 教授  
榎屋 友子 教授(兼)  
板倉 聖哲 准教授(兼)  
名和 克郎 准教授(兼)  
園田 茂人 教授(兼)  
松田 康博 教授(兼)

### 特任研究員

大平 泰男  
鶴飼 敦子  
室井 康成  
塩沢 裕仁  
山本 伸裕  
金 氣興  
飯野 りさ

### 事務部

事務長 石井 好和  
副事務長(総務チームリーダー) 高橋 博行  
主査(図書チームリーダー) 石川 一樹

### 総務チーム(総務担当)

係長 齊藤 泰徳  
係員 杉森美和子  
事務補佐員 花坂さえ子  
技術補佐員 新 雅史  
技術補佐員 藤岡 洋

### 総務チーム(会計担当)

係長 村上 靖朋  
主任 滝井 洋一  
主任 荻荘 美穂  
事務補佐員 宮崎 法

### 総務チーム(研究支援担当)

係長 酒井 恵美  
係長 山下 英明  
主任 秋山 真紀  
事務補佐員 松本 律子

### 図書チーム(資料受入担当)

係長 須永 雅子  
主任 菅原 英子  
事務補佐員 川崎 潤子  
事務補佐員 近藤 恭子

### 図書チーム(整理・サービス担当)

係長 大川 直子  
専門職員 吉井 初巳  
係員 大堀明日香  
特任専門職員 山口 明子  
事務補佐員 中山真由美  
事務補佐員 西村 直子

### 画像技術室

技術専門職員 野久保雅嗣

## 名誉教授

|       | 称号授与    |
|-------|---------|
| 中根 千枝 | 1987. 5 |
| 尾上 兼英 | 1988. 5 |
| 山崎 利男 | 1990. 5 |
| 板垣 雄三 | 1991. 5 |
| 池田 温  | 1992. 5 |
| 山田 三郎 | 1992. 5 |
| 田仲 一成 | 1993. 5 |
| 友杉 孝  | 1993. 5 |
| 松丸 道雄 | 1995. 5 |
| 松谷 敏雄 | 1997. 5 |
| 蜂屋 邦夫 | 1999. 5 |
| 岡本 サ工 | 2001. 5 |
| 後藤 明  | 2002. 5 |
| 濱下 武志 | 2004. 5 |
| 猪口 孝  | 2005. 5 |
| 柳澤 悠  | 2005. 5 |
| 原 洋之介 | 2006. 5 |
| 関本 照夫 | 2010. 6 |
| 中里 成章 | 2010. 6 |
| 宮嶋 博史 | 2010. 6 |
| 尾崎 文昭 | 2012. 6 |
| 加納 啓良 | 2012. 6 |
| 鈴木 董  | 2012. 6 |

## 歴代事務長

|       | 在職期間                 |
|-------|----------------------|
| 山高 力三 | 1941.11.27-42. 9.30  |
| 根本 喜蔵 | 1942.10. 1-44. 7. 9  |
| 長内太郎吉 | 1944. 7.10-54. 7.15  |
| 工藤松之助 | 1954. 7.16-63.10.31  |
| 宮本 健  | 1963.11. 1-69. 2.28  |
| 新井 康次 | 1969. 3. 1-74. 3.31  |
| 斎藤 益  | 1974. 4. 1-77. 6.30  |
| 三浦 皓守 | 1977. 7. 1-81. 3.31  |
| 伊東秀三郎 | 1981. 4. 1-83. 3.31  |
| 岡部 藤男 | 1983. 4. 1-86. 3.31  |
| 木内 義一 | 1986. 4. 1-90. 3.31  |
| 江澤 兵治 | 1990. 4. 1-92. 6. 1  |
| 石川 純男 | 1992. 6. 1-95. 3.31  |
| 千葉 勝志 | 1995. 4. 1-97. 3.31  |
| 小林 邦男 | 1997. 4. 1-99. 3.31  |
| 石井 金夫 | 1999. 4. 1-2001.3.31 |
| 柿沼 肇  | 2001. 4. 1-2004.3.31 |
| 小川 勝美 | 2004. 4. 1-2006.9.30 |
| 佐沼 繁治 | 2006.10. 1-2009.3.31 |
| 武田 達明 | 2009. 4. 1-2012.3.31 |
| 石井 好和 | 2012. 4. 1-現在        |

## 教職員の異動

|   |
|---|
| 准教授 Schiltz Michael<br>2011 (平成 23) 年 10 月 1 日採用        |
| 教授 松田 康博<br>2011 (平成 23) 年 12 月 1 日昇任                   |
| 教授 田中 明彦<br>2012 (平成 24) 年 3 月 31 日転入                   |
| 教授 尾崎 文昭<br>2012 (平成 24) 年 3 月 31 日定年退職                 |
| 教授 加納 啓良<br>2012 (平成 24) 年 3 月 31 日定年退職                 |
| 教授 鈴木 董<br>2012 (平成 24) 年 3 月 31 日定年退職                  |
| 教授 田中 明彦<br>2012 (平成 24) 年 3 月 31 日辞職                   |
| 教授 丘山 新<br>2012 (平成 24) 年 3 月 31 日辞職                    |
| 准教授 廣田 輝直<br>2012 (平成 24) 年 3 月 31 日任期満了退職              |
| 助教 辻 明日香<br>2012 (平成 24) 年 3 月 31 日任期満了退職               |
| 教授 松田康博<br>2012 (平成 24) 年 3 月 31 日転出                    |
| 事務長 武田 達明<br>2012 (平成 24) 年 3 月 31 日転出                  |
| 主査 (図書チームリーダー)<br>三浦 圭子<br>2012 (平成 24) 年 3 月 31 日転出    |
| 係長 (研究支援担当) 押木 久雄<br>2012 (平成 24) 年 3 月 31 日転出          |
| 係長 (整理・サービス担当)<br>山口 香織<br>2012 (平成 24) 年 3 月 31 日転出    |
| 特任教授 Charney Michael Walter<br>2012 (平成 24) 年 4 月 1 日採用 |
| 准教授 李 賢鮮<br>2012 (平成 24) 年 4 月 1 日採用                    |
| 教授 田中 明彦<br>2012 (平成 24) 年 4 月 1 日委嘱                    |
| 助教 安田 佳代<br>2012 (平成 24) 年 4 月 1 日採用                    |
| 事務長 石井 好和<br>2012 (平成 24) 年 4 月 1 日転入                   |
| 主査 (図書チームリーダー)<br>石川 一樹<br>2012 (平成 24) 年 4 月 1 日転入     |
| 係長 (研究支援担当) 酒井 恵美<br>2012 (平成 24) 年 4 月 1 日転入           |
| 係長 (研究支援担当) 山下 英明<br>2012 (平成 24) 年 4 月 1 日転入           |
| 専門職員 (整理・サービス担当)<br>吉井 初巳<br>2012 (平成 24) 年 4 月 1 日転入   |
| 係長 (整理・サービス担当)<br>大川 直子<br>2012 (平成 24) 年 4 月 1 日配置換    |

## 財 政 (2011 年度)

### 1. 財政

| 2011 年度予算額 (千円) |         |
|-----------------|---------|
| 大学運営費           | 188,767 |
| 科学研究費補助金        | 111,490 |
| 受託研究・受託事業       | 10,316  |
| その他外部資金         | 4,480   |
| 寄附金             | 4,039   |
| 間接経費            | 12,082  |
| 合 計             | 331,174 |

### 2. 科学研究費

| 2011 年度    |            |    |
|------------|------------|----|
| 研究種目       | 交付決定額 (千円) | 件数 |
| 新学術領域      | 9,750      | 1  |
| 基盤研究 S     | 34,320     | 2  |
| 基盤研究 A     | 19,240     | 2  |
| 基盤研究 B     | 32,890     | 8  |
| 基盤研究 C     | 4,680      | 4  |
| 若手研究 B     | 3,120      | 3  |
| 研究活動スタート支援 | 4,186      | 3  |
| 特別研究員奨励費   | 13,700     | 18 |
| 研究成果公開促進費  | 5,500      | 1  |
| 合 計        | 127,686    | 42 |

### 3. その他の経費

|                 |                  |
|-----------------|------------------|
| トヨタ財団研究助成金      | 旭硝子財団・ステップアップ助成  |
| 「親鸞ルネサンス」支援寄附金  | アジア・アフリカ学術基盤形成事業 |
| 三島海運記念財団学術研究助成金 | 日本関連在外資料調査研究事業   |
| 三菱財団人文科学研究助成金   | ひらめき☆ときめきサイエンス事業 |

## 施 設

|             |   |            |  |
|-------------|---|------------|--|
| 1941 年 11 月 | 東京帝国大学附属図書館内に新設   | 1984 年 3 月 | 全面改修工事完成   |
| 1948 年 9 月  | 文京区大塚町 56 旧東方文化学院建物に移転。附属図書館内に分室をおく<br>敷地面積 720 m <sup>2</sup><br>本館建物面積 6,612 m <sup>2</sup> | 2006 年 2 月 | 研究所建物の耐震補強工事が必要であることが判明<br>同年 7 月以降 研究室・事務室・図書・研究資料の仮移転を実施 |
| 1965 年 10 月 | 本郷構内新庁舎第 1 期工事完成により一部移転   | 2007 年 8 月 | 研究所建物耐震補強・改修工事開始   |
| 1968 年 7 月  | 本郷構内新庁舎に全面移転完了  | 2008 年 3 月 | 工事完了   |
| 1982 年 3 月  | 総合研究資料館と交換分合し、全館を使用<br>建物面積 6,577 m <sup>2</sup>  | 5 月        | 仮移転先からの再移転を開始  |
|             |   | 9 月        | 再移転完了  |

## 【主要所蔵図書】

### [大木文庫]

本研究所創設時に、大木幹一氏より中国法制関係書総数 3,168 部、45,452 冊の寄贈を受けた。公牘類の数百部は本文庫の柱梁をなし、法律関係の貴重書をはじめ、明清以後の時期の研究には不可欠の蒐集資料である。1959 年に『東京大学東洋文化研究所大木文庫分類目録』が編纂され、刊行された。

### [帝国学士院東亜諸民族調査室旧蔵書]

1944 年帝国学士院東亜諸民族調査室の解散にともない、その蔵書の和漢洋書・雑誌・資料等 2,000 冊が移管された。このなかには西欧におけるアジア諸民族研究の主要な文献が集められている。

### [東方文化学院旧図書]

1929 年に、東方文化に関する研究機関として、外務省所管の東方文化学院東京研究所が創設されたが、1948 年に廃された。その旧蔵書と和漢洋書あわせて 103,587 冊が、1967 年 3 月に本研究所に移管された。漢籍の中核は、1929 年に中国浙江省の徐則恂氏より一括購入した東海蔵書楼蔵書である。

### [松本忠雄氏旧蔵書]

1949 年度科学研究費により松本忠雄氏旧蔵の和漢洋書、雑誌など約 3,000 冊を購入した。とくに近代中国研究資料として重要なものがある。

### [雙紅堂文庫]

1951・53 両年度科学研究費により、長澤規矩也氏旧蔵の約 3,000 冊を購入した。その内容は明清時代の戯曲小説類である。1961 年 1 月、本研究所創立 20 年にあたり、同氏から約 150 冊の補充を得るとともに、『雙紅堂文庫分類目録』を刊行した。

### [清野文庫]

1952・53 両年度科学研究費により、清野謙次氏旧蔵洋書 750 冊を購入した。人類学・考古学関係のものを根幹とする。1978 年 3 月に『東京大学東洋文化研究所清野文庫分類目録』を刊行した。

### [矢吹慶輝氏旧蔵書]

1952 年度科学研究費により、矢吹慶輝氏旧蔵洋書約 360 冊を購入した。英仏独のマニ教の文献を中心とし、仏教遺跡の発掘報告書も含まれている。

### [下中文庫]

下中弥三郎氏より、1953 年 1 月から 1957 年 6 月までの、戦後出版の中国書 4,500 冊、中国雑誌 10 種および戦後出版の東洋関係洋書 130 冊の寄贈を受けた。

とくに中国書は、当時入手できた書の主要なものをほとんど網羅している。

### [東京銀行調査部旧蔵資料]

1959・60 両年度にわたり、東京銀行調査部所蔵の経済関係書を主とする和漢書・資料類約 18,000 冊の寄贈を受けた。

### [仁井田文庫]

本研究所名誉教授仁井田陞氏の逝去（1966 年 6 月）後、所蔵の中国書 5,000 冊、洋書 120 冊、和書 2,200 冊、清代公私文書類 900 余点、50 基の碑文の拓本を受け入れた。大木文庫とともに旧中国の社会研究に重要なものである。1999 年 3 月に『東洋学文献センター叢刊 別輯 24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 附和洋書』を刊行した。また清代公私文書類も「東京大学東洋文化研究所 仁井田陞博士蒐集中國文書目録（稿）」として整理した。

### [我妻文庫]

我妻栄氏の逝去（1973 年 10 月）後、所蔵の和洋法学文献および各種資料が東京大学に寄贈された際、本研究所はとくにアジア法制関係文献資料総数 647 部 932 冊の寄贈を受けた。1982 年 3 月に『我妻栄先生旧蔵アジア法制関係文献資料目録』を刊行した。

### [倉石文庫]

1975 年度に本学名誉教授倉石武四郎氏の漢籍を主とする蔵書を収蔵することとなり、1981 年度までにその重要な部分、漢籍約 4,300 点、現代中国書 2,300 冊、および和洋書 3,400 冊を購入した。

### [江上文庫]

1981・82・84 各年度にわたり、本学名誉教授江上波夫氏の蔵書のうち、歴史学、民族学、考古学を中心とした洋書の一部約 2,550 点を購入した。

### [Daiber Collection I, II]

1986・87・94 年度にわたり、東洋学文献センターと協力し、ハンス・ダイバー氏の蒐集した計 487 点の写本を購入した。イスラームの宗教、思想、歴史に関する重要な資料である。1988/96 年に Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection I/II, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, by Hans Daiber を刊行した。

### [文淵閣四庫全書影印本]

1988 年度に文淵閣本四庫全書影印本（索引つき）全 1,501 冊を購入した。清代以前の中国の古典文献を網

羅した最も基本的な叢書で、中国研究上不可欠の重要性をもっている。

#### [\[オランダ植民地省公文書索引およびジャワ官報\]](#)

1989年度に、マイクロフィッシュ化された資料一式を購入した。前者はオランダ国立公文書館所蔵の旧植民地省文書（1850年～1921年）の索引書数百巻分を網羅し、後者はインドネシアのオランダ植民地政府が1928年～1939年に公布した官報の集成である。

#### [\[乾隆版大蔵経\]](#)

1990年度に全724函（毎函10冊）、大清三蔵聖教目録一函（5冊）を購入した。中国最後の木版大蔵経で、1,657部の仏教典籍が収録されている。漢文の大蔵経で経版木が保存されているものは、高麗蔵とこの乾隆版のみで、きわめて貴重な資料である。

#### [\[Ouseley Collection\]](#)

イギリスの外交官で東洋学者のG. Ouseley 卿（1770～1844）の旧蔵書の一部。17世紀から19世紀にかけてのヨーロッパ人のインド、中近東への旅行記とペルシア文学作品を主とした60点、全106冊からなる。Ouseley 自身の書き込みが随所に見られる点など、資料的価値が高い。

#### [\[Müteferrika Collection\]](#)

1727年にオスマン帝国の首都イスタンブールで開設された、最初のムスリム経学の活版印刷所で刊行された書籍17点。イスラム世界における最早期の刊本。

#### [\[南アジア伝導教団資料集成\]](#)

南アジア各地で伝導活動を行ったキリスト教団の、18世紀末から20世紀までの年報、諸会議の議事録、往復文書、報告書等を含んだマイクロフィッシュ資料である。

#### [\[Indonesian Monographs, 1945—1973\]](#)

オランダの王立・言語・地理・民族学研究所が蒐集した、独立後インドネシアの社会科学関係出版物3,258点をマイクロフィッシュにまとめたもの。内容はきわめて多彩で、インドネシア現代史の研究に不可欠の資料集である。

#### [\[今堀文庫\]](#)

広島大学名誉教授今堀誠二氏の逝去（1992年10月）後、所蔵の漢籍300点、中国書2,000冊、文書資料500点を購入した。近現代中国の社会史資料、華僑史資料など多くの原資料を含む。（1994年度一般設備費）

#### [\[東アジア宗族社会史関係資料\]](#)

東アジア全域にわたる宗族社会史の比較研究に重要な資料集。朝鮮族譜集成494冊、中国華南宗族社会史資料、南洋華僑・華人関係資料2,263冊からなる。

族譜、社会、華人史の基本資料として貴重な資料である。（1995年度一般設備費）

#### [\[中国西北文献叢書\]](#)

陝西、甘肅、寧夏、青海、新疆などの中国西北地方に関する、歴史、地理、民俗、文学そのほかの諸分野の基本文献を網羅した叢書。（1995年度一般設備費）

#### [\[オスマン語・トルコ語年鑑定期刊行物コレクション\]](#)

トルコにおいてオスマン語および現代トルコ語で刊行された年鑑類、定期刊行物。19世紀初頭オスマン帝国時代の国家年鑑や、西アジア各地方およびバルカンに関する公的な年鑑など、政治、社会、経済から文化にいたる広汎な分野を網羅し、近現代の西アジア研究者にとって類例の少ない貴重な資料群である。（1996年度一般設備費）

#### [\[西アジア関連写本集成\]](#)

ミンガナ・コレクション、ロンドン大学東洋アフリカ研究所などが所蔵するアラビア語を中心としたマイクロフィッシュによる写本集成。クルアーン学から、法学、文学、自然科学、歴史学、宗教諸学を含むイスラームを中心とした西アジアの思想・文化・歴史の研究に不可欠の資料である。（1996年度一般設備費）

#### [\[中国第一歴史档案館所蔵清代档案資料\]](#)

1997年度に標記档案資料のマイクロフィルムを購入した。内容は「宮中硃批奏摺財政類」「軍機処録副奏摺全国水利雨水自然災害資料」「内閣京察冊」「宮中履歴片」「戸部一度支部俸銀米冊」「琿春副都統衙門档案」「刑法部胎谷案」「吏部造送封贈姓氏冊」「清代琉球档案史料」である。これらは総数一千万件におよぶ中国第一歴史档案館所蔵の清朝公文書の一部を成すものであり、清代中国の政治・制度・経済・社会の分析において極めて重要な第一次資料である。（1997年度一般設備費）

#### [\[夕嵐草堂文庫\]](#)

本学名誉教授前野直彬氏の逝去（1998年1月）後、小説類に特色を持つ所蔵の漢籍約500点4,400冊を購入し、「夕嵐草堂文庫」と名付けた。中に貴重な版本を含んでいる（1998年度リーダーシップ支援経費）。2003年3月に『東洋学研究情報センター叢刊2 東京大学東洋文化研究所夕嵐草堂文庫目録』（山之内正彦編）を刊行した。

#### [\[伊藤文庫\]](#)

京都大学名誉教授故伊藤義教氏の古代・中世イラン関係旧蔵書849冊。古代・中世イラン語テキスト類を中心としている。『東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤

義教文庫目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2004・2009年）が刊行されている。

#### [田中則雄氏旧蔵書]

田中則雄氏が収集したインドネシアに関するオランダ語を中心とする洋書文献コレクション。『東京大学東洋文化研究所蔵田中則雄氏旧蔵書目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2002年）が刊行されている。

#### [安田文庫旧蔵『論語』コレクション]

昭和戦前期における古文書・古籍のコレクションとして名高い「安田文庫」旧蔵の『論語』各種和刻本9点ほか2点を、収集者安田善次郎（二代目）氏の直孫である安田弘氏から寄贈されたもの。なかでも正平版『論語』（単跋早印本，室町時代，15世紀前半の刊本）は、日本で仏教経典以外では最初の木版印刷の書籍であるとともに、六朝時期における『論語』の姿を伝えるテキストとして、今日でもきわめて珍重されているものである。

#### [上村文庫]

マハーバーラタの日本語全訳など、古典サンスクリット詩学に関する研究で多大な成果をあげられた東洋文化研究所故上村勝彦教授の旧蔵書で、古典サンスクリット文学・詩学、インドの古典学問、宗教・哲学に関する文献を主体とする658点のサンスクリット語典籍である。

#### [タイ語文献コレクション]

友杉孝本学名譽教授からご寄贈いただいた文献2,185点を基礎に、2,728冊のタイ語文献から構成されている。東南アジア歴史・地理を中心にした貴重な資料で

### **【主要所蔵資料】**

#### [殷代甲骨]

本研究所蔵甲骨は、次の三部分からなる。第一は、故河井仙郎氏旧蔵の1,708片で、1979年に現蔵者井上富美子氏より寄贈された。第二は故田中慶太郎氏旧蔵の393片で、1979年に購入した。第三は旧蔵者三浦清吾氏より寄贈された2片である。合計2,103片に達し、京都大学人文科学研究所に次ぐ、わが国有数の蒐集である。これは、整理・綴合の上、松丸道雄『東京大学東洋文化研究所蔵甲骨文字 図版篇』（東洋文化研究所報告1983年）として刊行された。

ある。

#### [荒木文庫]

我国の波斯（ペルシア）語研究の先駆者である荒木茂氏が財団法人啓明会の補助を受け、1922年から1931年にかけて収集された波斯（ペルシア）関係の辞典、紀行、歴史、言語、美術等に関する洋書938点1,112冊である。『東京大学東洋文化研究所蔵荒木茂文庫目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2007年）が刊行されている。

#### [両紅軒文庫]

伊藤漱平・東京大学文学部元教授の旧蔵書。明末清初の文人李漁の諸作品及び清代の小説『紅樓夢』を中心に、作品の版本・研究書・翻訳を網羅している。天下の孤本である『嬌紅記』（鄭雲竹刊本）、『紅樓夢』最初期の印本である「程甲本」などを含む。

#### [滝川勉文庫]

滝川勉・筑波大学農林学系および日本大学農獣医学部元教授の旧蔵書。フィリピンを中心に東南アジア各国の経済、政治、社会、歴史、文化に関する多数の研究書と資料を網羅している。『東京大学東洋文化研究所蔵滝川勉文庫目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2010）が刊行された。

#### [山崎文庫]

本研究所の山崎利男名譽教授からご寄贈いただいたものである。約490点。主にインド古代史とインド法制史の文献からなり、近代史関係も含まれている。W. ジョーンズによる『マヌ法典』の翻訳など稀覯書もみられる。言語は英語、サンスクリット、マラーティー、ベンガリーなどである。

#### [中国古銭・錢范]

旧東方文化学院の蒐集品で、殷代の貝貨、戦国時代の布銭・刀銭・郢爰からはじまり、歴代の代表的貨幣を収蔵する。約1,250点の古銭と、10点の銭の范模を含む。

#### [中国考古資料]

上記の甲骨、古銭以外に、瓦当約110点、鏡、戈、戟、鏹などの青銅器、玉器、土器、磚、磚製買地券、壁面片、俑、仏像、衣服、室内装飾品、土俗品がある。大部分は旧東方文化学院が購入し、本研究所に移管されたものである。

### [中国絵画資料（原版・焼付写真・カラスライド・デジタル画像等）]

米国，カナダ，欧州，アジアの美術館，個人蒐集家が所蔵する中国絵画，および日本現存の中国絵画に関するものが主体で，その他に米国ミシガン大学アーカイヴより購入した台北故宮博物院所蔵中国美術作品の焼付写真，東京国立文化財研究所原版からの羅漢・十王国の焼付写真等があり，現在約 20 万点にのぼる。「東洋学文献センター叢刊」として 10 冊の目録が 1977～83 年，1992 年～98 年の両度にわたって刊行され，図録は東京大学出版会より『中国絵画総合図録』（全 5 巻）が 1982 年～83 年，『同 続編』（全 4 巻）が 1998 年～2001 年の両度にわたって刊行された。現在，『同 三編』の出版を準備中である。

### [中国清代・民国期の文書資料]

17 世紀から 20 世紀におよぶ，北京をはじめ嘉興，武進，蘇州，通州，宝応，鳳山などの土地文書を中心とし，その他公私文書類約二千数百点がある。仁井田陞名誉教授旧蔵遺贈分や旧東亜研究所収集文書等を含む。目録と内容の一部は，1983 年～86 年に『東洋文化研究所蔵中国土地文書目録・解説（上）（下）』（東洋学文献センター叢刊）として刊行された。（閲覧準

備中。）

### [内蒙古出土学術資料]

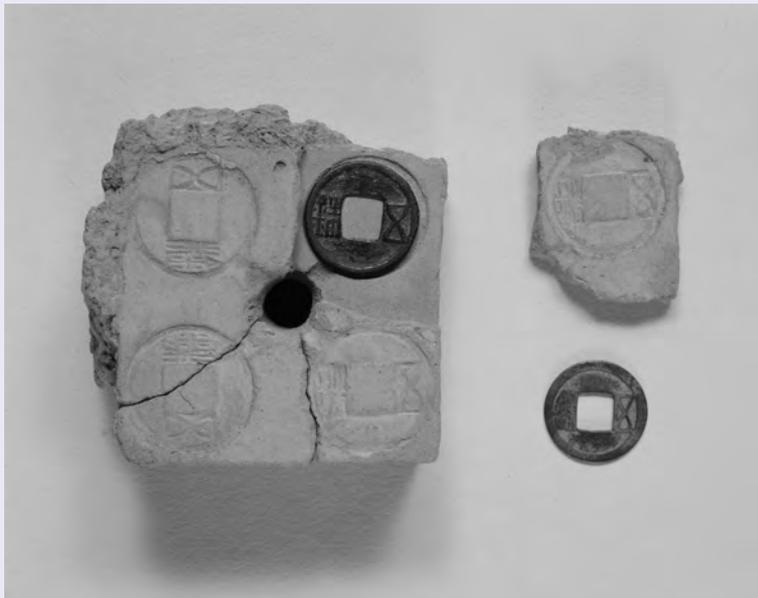
江上波夫名誉教授が戦前に内蒙古で発掘・採集した資料約 1 万点が，1983 年に寄贈された。主として土器片・陶器片である。資料の一部は江上氏のいくつかの論文に掲載されているが，圧倒的多数は未発表のものである。

### [インド・イスラム史跡調査関係資料]

デリーおよびインド各地に現存するデリー・スルタン朝時代のムスリム遺跡に関する資料で，写真，実測図などが主なものである。1959 年～62 年度に「東京大学インド史跡調査団」が実施した現地調査の成果の一部である。『デリー：デリー諸王朝時代の建造物の研究』第 1 巻（1967），第 2 巻（1969），第 3 巻（1970）が刊行された。

### [西アジア考古資料]

古代イラン文明の研究を目的として，1956 年以来「東京大学イラン・イラク遺跡調査団」が両国における遺跡 14 か所を発掘・調査した結果，収集したもの。その数は数万点に達し，大部分は発掘品で，考古学上第一級資料である。1958 年から 1984 年にかけて『イラク・イラン遺跡調査団報告』20 冊が刊行されている。



「漢唐五銖銭と范」

貨幣はまず第一次范をつくり，これから模をとり，模からさらに第二次范をつくり，それに青銅を流し込んで貨幣をつくる。第二次范はそのつど破壊される。模から始まる場合もある。写真は模からつくった范が多段式になっている場合である。

## 【交流協定】

### 【中国・復旦大学】

東京大学と復旦大学との間における学術交流協定は、1991年10月に結ばれた。この協定の運用は、東京大学では、当初理学部が担当部局であったが、1996年に更新期限となり、その後東洋文化研究所が担当することとなった。2006年、2011年に再更新している。交流の内容は、両校間における(1)教員、研究者、院生、学生の交流、(2)共同研究の計画と実施、(3)講義とセミナーの実施、(4)学術情報および学術刊行物の交換、などである。

### 【シンガポール国立大学人文・社会科学部】

1997年4月にシンガポール国立大学人文・社会科学部社会学科との間で学術交流協定を結び、2000年1月には同学部との5年間の協定に改定し、2005年1月に更新した。この協定は、研究者の交流と研究資料の相互交換を主な目的とし、当研究所の先端地域研究プログラム「アジアの脱植民地化と伝統的産業の再編成」を効果的に推進する上でも重要な役割を果たした。2006年1月に東京大学とシンガポール大学との大学間協定が締結されたのに伴ない、この協定は2010年1月で終結し、当研究所は大学間協定の担当部局となっている。

### 【ブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部】

2005年8月にブルネイにおける唯一の大学で、国立の総合大学でもあるブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部と、研究交流および学術情報の交換を主な目的とする部局間交流協定を締結し、2010年8月にさらに5年間の更新を行った。この間、2006年に先方で、2008年に東洋文化研究所で東南アジアの文化・社会・言語などに関する共同シンポジウムを開催し交流を深めた。東南アジア研究コースをもつ先方では同分野での対外交流の継続を望んでおり、東洋文化研究所としてもブルネイとの交流を通じて東南アジア地域の文化・歴史・社会についての知見を拡大できるので、今後も交流を深めたいと考えている。

### 【フランス高等研究院】

2005年5月に、本研究所と東京大学史料編纂所が共同で、フランス高等研究院（パリ）と5年間の学術交流協定を締結し、2010年にはこの協定がさらに5年間延長された。フランス高等研究院は、19世紀後半に設立された大学院大学で、フランスにおける歴史学・宗教学・言語学などのいわゆる人文学研究の拠点である。この協定は、2002年（パリ）と2004年（東京）に開催された「日仏コローク」をうけて締結されたもので、研究者の交流、共同研究の実施、資料・情報の交換などの実質的な研究協力がさらに進むことが期待される。

### 【台湾・中央研究院】

本交流協定は、2010年2月に台北で調印された。中

央研究院側のパートナーが社会学研究所と人文社会科学センター付属アジア太平洋地域研究センターの2か所という、少々変則的な形での協定となった。交流内容は、(1)教員及び研究者の交流、(2)共同研究の実施、(3)講義・講演・シンポジウムの実施、(4)学術情報及び資料の交換である。調印式の後、第1回若手社会学者共同ワークショップが1日半の日程で実施され、その後、2011年2月、2012年3月に、それぞれ第2回（東京）、第3回（台北）の共同ワークショップが実施された。2010年度に採択された日本学術振興会アジアアフリカ学術基盤形成事業「アジア比較社会研究のフロンティア」では台湾拠点機関となるなど、共同作業が着実に積み上がっている。

### 【イタリア・ナポリ東洋大学】

本研究所は、2011年度にナポリ東洋大学（イタリア）との間で、アジア研究全般に亘る分野での学術交流協定を締結した。ナポリ東洋大学は、18世紀の設立以来、南ヨーロッパにおけるアジア研究の拠点となっている伝統ある教育研究機関である。2011年度には、森本一夫准教授がナポリを訪れて講演を行い、ナポリからはMichele Bernardini准教授が本研究所を訪れ講演した。今後、両機関の間での研究者交流に加えて、より総合的なシンポジウムを開催する計画が進行中である。

### 【イラン・テヘラン大学】

東京大学は1997年4月以来、全学交流協定によりテヘラン大学との協力関係を維持している。交流分野はイスラム学および東洋史学、交流内容は学術資料の交換をはじめ、教員・研究者および学生の交流、共同研究の実施、講義・講演・シンポジウムの実施などを幅広くカバーしている。東洋文化研究所は関連部局としてこの協定の運営に参画している。（当協定は2012年4月現在更新手続き中）

### 【トルコ・イスタンブル工科大学】

トルコにおける最古の工科大学であり、建築史・都市工学等、人文社会系にもつらなる分野においても実績のあるトルコ国立イスタンブル工科大学と、研究交流および学術情報の交換を主な目的とし、2011年8月に、建築学部と本研究所と部局間協定を締結し、より具体的な協力プロジェクトにつき交渉を開始したが、2011年12月には本学工学部とも部局間協定が成立した。これをふまえ2012年中には全学協定が成立する見込みで、全学協定の成立とともに本研究所は部局間協定を発展的に解消し、新たな全学協定体制下における関係部局として協力関係を強化していくこととした。トルコは西アジアの地域大国でもあり今後の協力関係、協力事業の発展が期待される。

## 【刊行物一覧】

### 東洋文化研究所刊行物（2010・2011年度）

#### 東洋文化研究所紀要

##### ●第158冊（2010年12月）

大木康 冒襲における杜詩

衣川賢次 徳山と臨濟

青木健 ソロアスター教ズルヴァーン主義研究 1——『ウラマー・イエ・イスラーム』の写本蒐集と校訂翻訳——

Kei KATAOKA A Critical Edition of Bhaṭṭa Jayanta's *Nyāyamañjarī*: Jayanta's View on *jāti* and *apoha*

加納啓良 東南アジア・プランテーション産業の脱植民地化と新展開——インドネシアとマレーシアのアブラヤシを中心に——

呂静 秦代における行政文書の管理に関する考察——里耶秦牘の性格をめぐって——

##### ●第159冊（2011年3月）

伊藤徳也 啓蒙主義的現代儒家、かつ中国式類廃派——周作人における「凡人」と「生活の芸術」——

栗田禎子 アリー・アブド・アッ・ラティーフの生涯——スーダン「一九二四年革命」の社会的背景分析の素材として——（上）

青木健 初期イスラーム神学ムッタズィラ派研究 2——『ウラマー・イエ・イスラーム』の写本蒐集と校訂翻訳——

鈴木恵美 削除された歴史——エジプト農地改革における地主議員——

加藤博・岩崎えり奈 エジプト農村の世帯・家族構造

小泉順子 タイ・アメリカ教育交換協定に関する一考察——冷戦初期アメリカの文化外交戦略と対タイ教育交流——

等々力政彦 烏里雅蘇台志略にみえる、最古の可能性のあるトゥバ語語彙について

富樫智 内モンゴアラ善砂漠における住民参加型砂漠化防止の研究と実践

鹿嶋瑛 中国における行政手続規定違反の効果をめぐって

外川昌彦 ガンディーと共に暮らす——1930年代の日印関係と藤井日達のインド体験——

##### ●第160冊（2011年12月）

村井章介 雪舟等楊と笑雲瑞訢——水墨画と入明記にみる明代中国——

大野公賀 弘一法師（李叔同）と日本——清末から民国期の中日文化交流の一例として——

吉田真吾 安保改定の起源——一九五五—一九五八年——

青木健 ソロアスター教ズルヴァーン主義研究 3——『ウラマー・イエ・イスラーム』の写本蒐集と校訂翻訳——

吉川雅之 レッグ編 *Lexilogus* に記される粵語音の表記と体系

加藤博・岩崎えり奈 「革命」の前後でエジプト国民の政治意識はどう変化したか

田中公明 『秘密集会』の身体曼荼羅論——Nāgabodhiの『安立次第論』第2章 サンスクリット写本ローマ字化テキスト——

遠藤仁・小磯学 インド共和国グジャラート州カンバートにおける紅玉髓製ビーズ生産：研究序説

娜鶴雅 清朝末期における裁判制度について——刑事裁判手続きを中心として——

森川伸吾 中国における司法試験と法学教育の関係——2008年前後の状況と議論——

山本伸裕 龍樹の「空」思想から親鸞の「方便」論へ——「戯論」*prapañca*と「智度言」*prajñapti*との差異について——

呉真 招魂と施食——敦煌孟姜女物語における宗教救済——

呂静・程博麗 [訳] 江村知朗 漢晋時期における名詞・名刺についての考察

Jae-Eun Shin From *Mātrgaṇa* to *Sapta Matrḱās*: Brahmanical Transfiguration of Autochthonous Goddesses

Kei Kataoka A Critical Edition of Bhaṭṭa Jayanta's *Nyāyamañjarī*: The Buddhist Refutation of *jāti*

##### ●第161冊（2012年3月）

大木康 彭劍南の戯曲『影梅庵』『香碗楼』とその時代

栗田禎子 アリー・アブド・アッ・ラティーフの生涯——スーダン「一九二四年革命」の社会的背景分析の素材として——（下）

青木健 ソロアスター教ズルヴァーン主義研究 4——『ウラマー・イエ・イスラーム』の写本蒐集と校訂翻訳——

喬志航 異なる未来への想像——『天義』から見るアナキズムの平等と労働——

小笠原欣幸 2010年台北・新北市長選挙の考察——台湾北部二大都市の選挙政治——

包茂紅（日本語訳 大野公賀）中国的环境史研究和新世界史的构建

（翻訳）中国の環境史研究と新世界史の構築

鈴木董教授 略歴・主要著作目録

加納啓良教授 略歴・主要著作目録

尾崎文昭教授 略歴・中国関係論文目録

## 東洋文化

### ●第91号 (2011年3月)

特集 オスマン帝国史の諸問題

鈴木董 序文

#### 第1部 世界秩序と国際関係

堀井優 16世紀オスマン帝国の条約体制の規範構造——ドゥブロヴニク、ヴェネツィア、フランスの場合——

鴨野洋一郎 15-16世紀におけるフィレンツェ・オスマン関係と貿易枠組み

澤井一彰 16世紀後半のオスマン朝における飢饉と食糧不足

黛秋津 オスマン帝国における中心=周辺関係の変容に関する一研究——18世紀後半のワラキア・モルドヴァとの宗主・付庸関係——

#### 第2部 前近代のオスマン帝国

高松洋一 オスマン朝ハットゥ・ヒュマーユーンについての一考察——切り取られたハットゥ・ヒュマーユーンの検討を中心に——

齋藤久美子 租税台帳に見るアナトリア南東部の人口構成

松尾有理子 オスマン朝におけるマドラサ制度の発展——16世紀後半-17世紀前半のバルカンの事例を中心に——

#### 第3部 「西洋化」改革から共和国へ

鈴木董 パシャたちの変貌——比較史から見た最末期オスマン朝の支配エリートの若干の特質——

秋葉淳 タンズィマート初期改革の修正——郡行政をめぐる政策決定過程(1841-42年)——

長谷部圭彦 タンズィマート初期における対キリスト教徒教育管理構想

上野雅由樹 タンズィマート期アルメニア共同体の再編——ミット憲法後のイスタンブル総主教座を中心に——

小笠原弘幸 トルコ共和国公定歴史学における「過去」の再構成——高校教科書『歴史』(1931年刊)の位置づけ——

### ●第92号 (2012年3月)

特集 魂の脱植民地化(3)

——「呪縛」からの脱却・「箱」の外に出る勇氣——

安富歩・深尾葉子 はじめに

#### 第1部 魂の脱植民地化の思想

安富歩 人間社会の秩序の基盤としての学習——儒家とサイバネティックス——

山本伸裕 「精神主義」の挫折——真宗ルネサンスのために——

Ursula Weiss The Gate of Effortless Practice

第2部 私を含む研究——異文化との出会いのなかで——

真鍋裕子 封殺された「言葉」を解き放つ——コリア研究がはらむハラメント性について——

中村平 台湾先住民民族タイヤルと私の遡行の旅——植民暴力の記憶の呪縛——

辻明日香 呪いから赦しへ——エジプトのコプト教会を研究する——

#### 第3部 自らを通じて社会へ

竹端寛 枠組み外しの旅——宿命論的呪縛から真の〈明晰〉に向かって——

富田啓一 スローライフ掛川の活動精神とその表れ——気持ち良さの所在について考える——

深尾葉子・原田愛子・梶田由胤 地域と環境を再生するコミュニケーションの渦——徳島県上勝町と滋賀県沖島に見る魂の脱植民地化過程——

深尾葉子 フクシマ・ディアスポラ——ゆがめられた言説が生む苦悩と葛藤——

## International Journal of Asian Studies

### 第7巻第2号 (2010年7月)

RYOICHI YASUKUNI Regional versus Standardized Coinage in Early Modern Japan: The Tokugawa *Kan'ei Tsūhō* 寛永通宝 Translated by Gaynor Sekimori

LEONG YEW Managing Plurality: The Politics of the Periphery in Early Cold War Singapore

XAVIER PAULÈS Gambling in China Reconsidered: *Fantan* in South China During the Early Twentieth Century

#### State of the field

CHRISTOPHER I. BECKWITH Could There Be a Korean-Japanese Linguistic Relationship Theory? Science, the Data, and the Alternatives

#### Review article

NORIHISA YAMASHITA A Materialist Approach to Early Modern Globality

### 第8巻第1号 (2011年7月)

LIANGREN ZHANG Chinese Lacquerwares from Begram: Date and Provenance

MICHAEL HOI-KIT NG Attorney on Trial: When Lawyers Met Phony Lawyers in Republican Beijing

AYANO KANO Backlash, Fight Back, and Backpedaling: Responses to State Feminism in Contemporary Japan

**Review articles**

TATSUYA NAKANISHI One Giant Leap in the Study of the Chinese Crescent: A Superb Annotated Translation of Liu Zhi's *Nature and Principle in Islam*

JAMES B. LEWIS The Wanli Emperor and Ming China's Defence of Korea against Japan

NICOLE WILLOCK Two Recent Contributions and New Horizons in Modern Tibetan History

LAMA JABB The Consciousness of the Past in the Creativity of the Present: *Modern Tibetan Literature and Social Change*

**第8巻第2号** (2011年7月)

HAMASHIMA ATSUTOSHI Communal Religion in Jiangnan Delta Rural Villages in Late Imperial China Translated by Matthew Fraleigh

KENTARO MATSUBARA Land Registration and Local Society in Qing China: Taxation and Property Rights in Mid-Nineteenth Century Guangdong

KOSAL PATH The Sino-Vietnamese Dispute over Territorial Claims, 1974-1978: Vietnamese Nationalism and Its Consequences

**第9巻第1号** (2012年1月)

REINER H. HESSELINK The *Capitães Mores* of the Japan Voyage: A Group Portrait

PETER KORNICKI The *Hyakumantō Darani* and the Origins of Printing in Eighth-Century Japan

TADD GRAHAM FRENÉE Modernity and Nation-making in India, Turkey and Iran

**State of the Field**

JEREMY E. TAYLOR AND GRACE C. HUANG "Deep Changes in Interpretive Currents"? Chiang Kai-shek Studies in the Post-Cold War Era

**東洋文化研究所刊行物**

(1995年以降全リスト) \*印は在庫なし

これ以前の刊行物については当研究所ホームページの「刊行物」リストをご参照下さい。

**東洋文化研究所紀要別冊**

50. 岡本さえ『清代禁書の研究』 1996
- \* 51. 丸尾常喜『魯迅『野草』の研究』 1997
- \* 52. 末成道男『ベトナムの祖先祭祀 潮曲の社会生活』 1998
- \* 53. 蜂屋邦夫『金元時代の道教 七真研究』 1998
54. 小倉泰『インド世界の空間構造 ヒンドゥー寺院のシンボリズム』 1999
- \* 55. 平勢隆郎『左傳の史料批判的研究』 1999

56. 上村勝彦『インド古典詩論研究 アーナンダヴァルダナの dhvani 理論』 1999
57. 岡本さえ『近世中国の比較思想』 2000
- \* 58. 橋本秀美『義疏學衰亡史論』 2001
- \* 59. 大木康『馮夢龍『山歌』の研究』 2003
60. 加納啓良『現代インドネシア経済史論』 2003
61. ティムール・ダダバエフ『マハッラの実像』 2006
- \* 62. 小寺敦『先秦家族関係史料の新研究』 2008
63. 大木康『冒襄と『影梅庵憶語』の研究』 2010
64. 松井健『西南アジアの砂漠文化：生業のエートスから争乱の現在へ』 2011
65. 平勢隆郎『「八紘」世界の出現とその展開』
- \* 66. 長澤榮治『アラブ革命の遺産 ユダヤ系エジプト人の思想的選択』

**東洋文化研究所叢刊**

- \* 15. 平勢隆郎『新編史記東周年表 中國古代紀年の研究序章』 1995
- \* 16. 蜂屋邦夫『中国の道教 その活動と道観の現状』 1995
- \* 17. 羽田正『シャルダン『イスファハーン誌』研究 17世紀イスラム圏都市の肖像』 1996
- \* 18. 平勢隆郎『中國古代紀年の研究 天文と暦の検討から』 1996
- \* 19. Takashi Inoguchi, Miguel Basanez, Akihiko Tanaka and Timur Dadabaev, eds., *Values and Life Styles in Urban Asia: A Cross-Cultural Analysis and Sourcebook* 2005
- \* 20. 大田省一・井上直美(編)『東京大学東洋文化研究所蔵清朝建築図様図録』 2005
21. 羽田正(編)『ユーラシアにおける文化の交流と転変』 2007
- \* 22. Masashi Haneda ed., *Asian Port Cities 1600-1800: Local and Foreign Cultural Interactions* 2009
- \* 23. Shingo Einoo ed., *Genesis and Development of Tantrism* 2009
- \* 24. 安富歩『黄土高原・緑を紡ぎだす人々：「緑聖」朱序弼をめぐる動きと語り』 2010
- \* 25. 松井健『グローバリゼーションと〈生きる世界〉：生業からみた人類学的現在』 2011
26. 鈴木董『オスマン帝国史の諸相』 2012

**東アジア部門美術研究分野報告**

『中國繪畫總合圖録 續編』

\* 第一巻 アメリカ・カナダ篇 1997

\* 第二巻 東アジア・ヨーロッパ篇 1997

- \* 第三巻 日本篇 1999
- \* 第四巻 総索引 2000

### 蔵書目録

- \*『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』 重版  
1981, 1996
- \*『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』  
1996
- \*『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』  
索引 1996

### その他

- \*『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 1996
- \*『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 1999
- \* *Conference Proceedings, Asia in the Twenty-First Century: Toward a New Framework of Asian Studies* 1996
- \*『アジアを知れば世界が見える』 2001
- 『アジア学の将来像』 2003
- 『アジア学の明日にむけて』 2008
- 『アジア古籍保全講演会記録集』  
第1回～第3回 2008
- 『アジア古籍保全講演会記録集』第4回 2009
- 『東京大学東洋文化研究所編 はじめての漢籍』  
2011

- 第3輯 東京大学東洋文化研究所蔵伊藤義教文庫目録 2004
- 第4輯 東京大学東洋文化研究所蔵清朝建築関係史料目録 2004
- 第5輯 東京大学東洋文化研究所蔵上村勝彦文庫目録 2005
- 第6輯 東京大学東洋文化研究所蔵古写真資料目録I 明治の営業写真家 山本讃七郎写真資料目録その1 2006
- 第7輯 東京大学東洋文化研究所蔵荒木茂文庫目録 2007
- 第8輯 伊藤義教氏転写・翻訳『デーンカルド』第3巻(1) 2007
- 第9輯 *Old Maps of Tuva 1 The detailed map of the nomadic grazing patterns of total area of the Tannu-Uriankhai* 2008
- 第10輯 *Old Maps of Tuva 2 Tannu-Utiankhai Maps in Eighteenth Century China* 2009
- 第11輯 伊藤義教氏転写・翻訳『デーンカルド』第3巻(2) 2009
- 第12輯 東京大学東洋文化研究所蔵滝川勉文庫目録 2010
- 第13輯 黄土地上来了日本人—中国山西省 三光政策村的记忆— 2011
- \* 第14輯 勃興する東アジアの中産階級—アジア比較社会研究のフロンティアI 2012

### 東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター刊行物 (1995年以降全リスト) \*印は在庫なし

これ以前の刊行物については当研究所ホームページの「刊行物」リストをご参照下さい。

#### ●東洋学文献センター叢刊

- 第65輯 許舒博士所蔵 商業及び土地契約文書  
乾泰隆文書(1) 潮汕地区土地契約文書  
1995
- 別輯20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995
- 別輯21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版(東  
アジア編) 1997
- 別輯22 日本所在中国絵画目録 続編 1998
- 別輯23 天津史文献目録 1998
- 別輯24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍  
目録 1999

#### ●東洋学研究情報センター叢刊

- 第1輯 東京大学東洋文化研究所蔵田中則雄氏旧  
蔵書目録 2002
- 第2輯 東京大学東洋文化研究所夕嵐草堂文庫目録  
2003

#### ●大型コレクション目録

*Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, by Hans Daiber* [東京大学東洋文化研究所蔵アラビア語写本(ダイバーコレクションII)目録] 1996

